

エンド・ウエーン社(丁抹)、オットー・ドイツ社(獨逸)等あるも、燒玉機關に於ては競争外國品なし。

#### B、燈油機關

競争外國品なし。

#### C、ガソリン機關

自動車用ガソリン機關は、自動車部分品として輸入せらるゝものなる故、直接の競争を見ることなし。自動自轉車用ガソリン機關に於ては、ハーレー・ダビッドソン會社(米國)、JAP社(英國)、MAG社(瑞西)等の競争者あり。

#### (ロ) 品質の比較

##### A、重油機關

艦船用大型ディーゼル機關及其他普通の陸船用ディーゼル機關に於ては、各種形式のもの製造せられ、品質も外國品に劣らざれども、高速ディーゼル機關に於ては未だ外國品に及ばざるものあり。燒玉機關は外國品より優秀なり。

##### B、燈油機關

燈油機關は外國品に比し遜色なし。

##### C、ガソリン機關

航空機用及貨物自動車用ガソリン機關の製作に於ては、相當の經驗を経たるを以て、最近に於ては外國品に比し殆んど遜色を認めざれども、乗用自動車機關に於ては未だ經驗に乏しき爲め、幾分遜色あるを免れず。其の他に類する陸船用ガソリン機關に於ては、外國品に比し遜色なし。最近著しき發達を見たる自動自轉車用機關は最早外國品に比し遜色無き迄に進歩し、外國品に對抗して輸入防遏の實を擧ぐるに至れり。船用船外機關は未だ本邦にては製造せられざれども、最近此の種機關の需要は相當増加せり。

#### (ハ) 價格の比較

##### A、重油機關

ディーゼル機關に於ては大差なきも、燒玉機關に於ては國產品の方低廉なり。

##### B、燈油機關

國產品の方遙かに低廉にして、外國品の輸入を許さざる狀況なり。

## C、ガソリン機關

自動車用ガソリン機關は、外國の如く大量的に生産し得ざる事情にあるを以て、國産機關の價格は著しく高價なり。自動自轉車用機關は、生産數量の増加並に爲替の關係にて、最近は國産品の方低廉となれり。

## (三) 競争上不利及有利とする點

## A、重油機關

ディーゼル機關は品質價格共に外國品と大差なく、往々にして舶來品偏重の觀念に支配せらるゝことあれども、故障修理の點を考慮すれば内地製品を使用するが有利なり。

燒玉機關は品質價格共に外國品に其比を見のざるものなるを以て、不利とする點なし。

## B、燈油機關

農工業用小型發動機として本邦独自の發達を遂げたるものなるを以て、外國品との競争上不利とする點なし。

## C、ガソリン機關

自動車用ガソリン機關は、外國の如く大量的に生産し得ざる關係上、價格の低下を圖り難き不

利あり。

## 七、金屬工機械

## 一、概 説

金屬工機械は金屬に切削、研磨等の加工を施す機械の總稱にして、其の種類甚だ多く旋盤、ボール盤(ドリリング・マシン)、フライス盤(ミリング・マシン)等は其の主なるものなり。

本邦に於ても需要比較的多き普通のものに於ては、永き經驗に依り製造技術も著しく進歩し、外國品に劣らざるもの製作せられ、國內の需要は殆んど國産品を以て充し、輸出も相當の額に達し居れり。而して精度高く加工能率大なる特殊機械に於ては、需要比較的尠き爲め、價格上外國品との競争不利なる事情にあるを以て、未だ本邦に於ては餘り製造せられざる状態にあれども、漸次發達の傾向にあり。

輸入状況を見るに木工機械を合せて昭和五年度に約四八四萬圓、同六年度に約三〇七萬圓、同七年度に約五八一萬圓にして、此の中七八割は金屬工機械と見做し得べく、輸入せらるゝ品種は殆んど特殊のものに限れるが如し。

二、輸出入状況

(イ) 輸入額 (木工機械を含む)

年 度	昭和五年		昭和六年		昭和七年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
百疋以下のもの	四二、〇四九疋	三〇二、九六九圓	二七、〇八六	一九四、三七七	一二、五〇三	一四六、三二六
五千疋以下のもの	一、二六五、四八〇疋	二、九九三、二七五圓	六〇九、四六六	一、五八三、五一五	一、一六五、一〇七	四、七八四、二四一
其の他	一、二四二、七五七疋	一、五四四、七七三圓	一、〇六五、六三七	一、二九二、二一四	五五五、九七六	八七七、六一四
計	二、五五〇、二八六疋	四、八四一、〇一七圓	一、七〇二、一八九	三、〇七〇、一〇六	一、七三三、五八五	五、八〇八、一八一

(ロ) 輸出額 (木工機械を含む)

年 度	數 量	價 額
昭和五年	三二四、五七五疋	三一、八〇五圓
昭和六年	三二三、七九四	二一九、九一七
昭和七年	三四六、七一八	二一六、三四五

三、生産状況

(イ) 生産額 (木工機械を含まず)

年 次	數 量	價 額
昭和五年	三二、七〇〇臺	四、四四〇、〇〇〇圓
昭和六年	一一四、八〇〇	三、九四〇、〇〇〇
昭和七年 (推定)		六、〇〇〇、〇〇〇

(ロ) 主要生産者名及所在地名

株式会社池貝鐵工所	東京市芝區本芝下町一八
東京瓦斯電氣工業株式會社	東京市大森區入新井町不入斗
株式會社井口鐵工所	東京市芝區白金志田町七三
淡路鐵工所	東京市麻布區新堀町七
塚本商事株式會社製作部	東京市品川區東大崎五ノ三四二
碌々商店製作部	東京市本所區吾妻橋一ノ八
汽車製造株式會社	大阪市此花區島屋町
平尾鐵工所	大阪市東區十二軒町四
西森鐵工所	大阪市東成區鶴橋北之町一ノ一三七
日比(祭三)鐵工所	大阪市此花區江成町一二六

株式會社大阪機械製作所	大阪市此花區大開町二ノ七二
足立鐵工所	大阪市西區本田町通二ノ六七
野村製作所	大阪市大正區泉尾中通一ノ七五
井上鐵工所	大阪市東區中道川西町五五七
株式會社新潟鐵工所(新潟工場)	新潟市入船町山ノ下
須藤鐵工所	新潟縣長岡市北中島町二、九二四
北越機械製作所	新潟縣長岡市西新町七四一
株式會社大隈鐵工所	名古屋市東區布池町一七
株式會社唐津鐵工所	佐賀縣唐津市大字唐津七、一八五
大垣鐵工場	大垣市東船町二一七
株式會社小松製作所	石川縣小松町

四、内外品競争狀況

(イ) 競争外國品の製造者名

ダーリング・セラール會社(英國)、アルフレッド・ハーバート會社(英國)、ウイリアム・ミューア會

社(英國)、レッドマシン會社(英國)、カーンス會社(英國)、アスクイス會社(英國)、ケンダル、  
エンド・セント會社(英國)、ロッチエンドシプソー會社(米國)、ナイルス會社(米國)、ブラット・  
エンド・フィットニー(會社)米國、ビックフォード會社(米國)、ブラウン・エンド・シャープ會社(米  
國)、ル・プロンドマシンツール會社(米國)、シンシナチミリングマシン(會社)米國、アルフレッ  
ドシユミット會社(獨逸)、ウンゲレル會社(獨逸)、ライネツカー會社(獨逸)

(ロ) 品質の比較

特殊機械を除き、普通の機械に於ては、凡ゆる種類のもの製作せられ、品質上外國品に比較して遜色無し。

(ハ) 價格の比較

以前より國產品の方低廉なりしが、最近にては爲替相場の關係にて一層廉價なり。

(ニ) 競争上不利及有利とする點

本邦に於ける金屬工機械の需要は相當多量に上るものなれども、大小、銘柄種々雜多にして、同一形式のもの、需要は比較的少量なるを以て、外國に於ける如く大量的に生産し得ざる不利あり。然れども使用者の希望を取入れ適宜設計變更を行ひ得る便宜あるを以て、使用者と製造者と

の間に緊密なる連絡を圖らば、望み通りのものを需給せらるる利益あり。

### 八、ポンプ

#### 一、概説

ポンプの種類は特殊のものを除けば往復動式ポンプと廻轉式ポンプとに大別せらる。往復動式ポンプは手動式のものゝ機動式のものゝに區別せられ大小銘柄種々雑多なり。

廻轉式ポンプはセントリフュガル・ポンプ、タービンポンプ、プロペラー・ポンプ等の類にして近年排水灌漑用としての需要著しく増大せり。

消防用ポンプ及其の他の小型ポンプに於ては、相當以前より國産品を以て殆んど需要を充し居れども、上水道、鑛山等にて用ひらるゝ特殊大型ポンプ及其の他の特殊ポンプに於ては、數年前までは尙ほ相當の輸入ありたり。然れども最近に於ては之等特殊品の製作技術も著しく進歩したるを以て、爲替相場の下落と相俟つて輸入額は著しき減少を來せり。

#### 二、輸出入状況

##### (イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和五年	一、〇九九、三八三疋	一、八八三、八二九圓
昭和六年	四三〇、八三四	七四〇、一一七
昭和七年	一一九、五三四	三七〇、八一六

##### (ロ) 輸出額 (部分品及附屬品を含む)

年次	數量	價額
昭和五年	四一三、八一三疋	三九五、一三三圓
昭和六年	三九八、八四二	三三一、八〇九
昭和七年	四三三、三二九	三四四、〇〇六

#### 三、生産状況

##### (イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和五年	五一六、〇〇〇個	八、〇〇二、〇〇〇圓
昭和六年	三九九、〇〇〇	六、八三八、〇〇〇
昭和七年		

##### (ロ) 主要生産者名及所在地名

株式會社荏原製作所

東京市品川區西品川二丁目七五〇

株式會社日立製作所龜戶工場	東京市城東區龜戶町八ノ一八〇
東京瓦斯電氣工業株式會社	東京市大森區入新井町不入斗
東京唧筒株式會社	東京市本所區龜澤町四ノ一二
富田ポンプ製作所	東京市澁谷區元廣尾一二
橫濱船渠株式會社	橫濱市長住町
株式會社西島製作所	大阪市此花區西島町七三
株式會社田中機械製作所	大阪市港區尻無川北通三ノ二〇
帝國機械製作所	大阪市西淀川區海老江上四ノ八
合資會社神藤ポンプ製作所	大阪市此花區中江町
株式會社鈴木製作所	大阪市大正區北泉尾町一ノ一四四
三菱造船株式會社神戸造船所	神戸市兵庫區和田崎町三丁目
株式會社關西工作所	神戸市四番町六ノ八
戸畑鑄物株式會社戸畑工場	戸畑市大字戸畑二、四五一

四、内外品競争狀況

(イ) 競争外國品の製造者名

バイロン・チャクソン・ポンプ會社(米國)、ワシントン・ポンプ・エンド・マシーナリー會社(米國)、  
 ゴウルズ・ボンブ會社(米國)、ウエア會社(英國)、ダブリユ・エッチ・アラン會社(英國)、ドライ  
 スデール會社(英國)、ズルツァー・ブラザーズ會社(瑞西)、エツシヤイ・ウイス會社(瑞西)

(ロ) 品質の比較

特殊用途のものは別として、普通多く用ひらるゝ廻轉式ポンプ及往復動式ポンプに於ては、外國  
 品に劣ることなし。

(ハ) 價格の比較

從來より概して國產品の方低廉なりしが、最近に於ては爲替相場の關係にて、價格は相當の開き  
 を生ぜり。

(ニ) 競争上不利及有利とする點

現在の爲替相場は國產品の進出上極めて有利とする處なり。  
 特に競争上不利とする點は認められず。

### 九、水 壓 機

#### 一、概 説

用途より見れば、鋼塊壓鍊用、管搾出用、成形用、其の他多方面に亘るものにして、近代工業の勃興に伴ひ使用範囲は著しく擴大されたれども、用途により設計を異にし、大量的に生産し得ざる關係上、生産費嵩み、外國品との競争概して有利ならざる状態なりき。然れども水壓機は概して重量品にして、内地にて製作するを有利とする爲め、國産品の品質向上するに伴ひ漸次に生産額を増加しつつありしが、最近に於ては爲替相場の下落により輸入は著しく阻止せられ、昭和六年度に於て約一〇萬七千圓なりし輸入額は、七年度に於ては約七千圓に激減せり。一方國産品の生産額は著しき増加を示し、昭和七年度に於ては七〇萬圓に達し、之を前年度に比すれば實に五六%の増額なり。故に現下の有利なる状況に善處し、國産水壓機の品質性能の改善向上を圖らば、水壓機の完全なる輸入防遏は可能なりと認む。

#### 二、輸出入狀況

##### (イ) 輸 入 額

年 次	價 額	年 次	價 額
昭和五年	二二七、三八一圓	昭和七年	六、九四五圓
昭和六年	一〇六、五八二		

##### (ロ) 輸 出 額

不詳なれども僅少の見込。

#### 三、生産狀況

##### (イ) 生 産 額

年 次	價 額	年 次	價 額
昭和五年	四五〇、〇〇〇圓	昭和七年	七〇〇、〇〇〇圓
昭和六年	四五〇、〇〇〇		

##### (ロ) 主要生産者名及所在地名

株式會社神戸製鋼所	神戸市葺合區脇濱町一ノ三一
株式會社小松製作所	石川縣小松町
濱 田 工 場	東京市城東區龜戸町一ノ九三
株式會社田中機械製作所	大阪市港區尻無川北通三ノ二〇

株式會社中島製作所	大阪市港區九條南通一ノ一二六
株式會社大阪製作所	大阪市東成區中道元町一ノ四九
合名會社西山鐵工所	大阪市此花區朝日橋通一ノ一二
合資會社楠木製作所	大阪市西淀川區傳法町北三丁目二八
合資會社小島鐵工所	群馬縣高崎市歌川町八

#### 四、内外品競争狀況

##### (イ) 競争外國品の製造者名

ブリス會社(英國)

##### (ロ) 品質の比較

構造形式は外國品同様にして品質性能共に遜色なし。然れども特殊水壓機に於ては、未だ經驗に乏しき爲め設計上遺憾なる點なきに非ず。

##### (ハ) 價格の比較

最近に於ては國產品の方低廉なり。

##### (ニ) 競争上不利及有利とする點

用途廣汎にして相當の需要あれども、種々雜多なる形式のものを要求せらるゝ故、大量的に生産すること能はず。従つて生産費嵩み、價格の點に於て外國品との競争不利なりしが、最近に於ては爲替相場の關係上國產品の方が却つて低廉となりたる爲、輸入は殆んど防遏せられたる状態なり。

## 一〇、送風機

### 一、概説

送風機には風壓の高低、送風量の大小及用途により種々なる形式のものあり。概して瓦斯壓送用の如き高壓大容量のものにはターボ・ブローワー、換氣用、汽罐通風用等の低壓小容量のものには多翼送風機、キユボラ用には多くロータリー・ブローワーが用ひらる。

本邦に於ける送風機の製作技術は近年著しき進歩を遂げ、製作最も困難なる特殊大型品も多數製作せらるゝに至れり。其の他一般送風機は多くの工場に於て製作せられ、品質も概して優秀にして、外國品に劣らざるもの多し。送風機の輸入狀況を見るに、昭和五年度に於ては約一四四萬圓に達せしが、同六年度には約五四萬圓に激減し、同七年度に於ては更に約一六萬圓に減少せり。



### 二、輸出入状況

#### (イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和五年	一、三五二、三〇八疋	一、四三六、二五八圓
昭和六年	六七八、〇七五	五四一、七七六
昭和七年	三一、九七七	一六一、二一三

#### (ロ) 輸出額

不詳なれども少量の輸出ある見込。

### 三、生産状況

#### (イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和五年	一、四〇〇臺	六〇〇、〇〇〇圓
昭和六年	一、二〇〇	四〇〇、〇〇〇
昭和七年	一、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇

#### (ロ) 主要生産者名及所在地名

株式会社日立製作所 龜戸工場 東京市城東區龜戸町八ノ一八〇

三菱造船株式會社 長崎造船所 長崎市飽之浦町一丁目

同 神戸造船所 神戸市兵庫區和田崎町三丁目

朝倉製作所 埼玉縣北足立郡南平柳村元郷

株式會社荏原製作所 東京市品川區南品川七五〇

三國鐵工所 大阪市東淀川區三國本町三四ノ二

合資會社増島工作所 東京市城東區南砂町七ノ七八六

三池鑛山三池製作所 福岡縣大牟田市

横濱船渠株式會社 横濱市中區長住町三

株式會社幸袋工作所 福岡縣幸袋町

合資會社住田作五郎商店 大阪市西區立賣堀北通六ノ四

合資會社關機械製作所 東京市深川區東扇橋町七〇

### 四、内外品競争状況

#### (イ) 競争外國品の製造者名

アメリカン・プロトワール會社(米國)、クライチ・ファン會社(米國)、グリーン・フユエル・エコノマ

イザール會社(米國)、ダビットソン會社(英國)

(ロ) 品質の比較

送風機に於て製作最も困難とせらるゝ特殊大容量のものも既に多數製作せられ、何れも優秀なる成績を示し居れり。其の他一般の送風機に於ては各社共相當の經驗を有し、外國品に劣らざる優良品を供給しつゝあり。

(ハ) 價格の比較

以前より國產品の方幾分低廉なりしが、最近に於ては爲替相場の關係にて著しき開きを生ぜり。昭和七年度に於ける輸入數量の激減は、一般財界の不況にも基因すること本邦生産額に殆んど變化なきことより推測し得るも、昭和六年度の二十分の一にも充たざるは、本邦製品の著しく低廉なることに主因を有すと云ふを得べし。

(ニ) 競争上不利及有利とする點

價格の著しく低廉なるは國產品の有利とする處なり。特に不利とする點なし。

## 一一、氣體壓縮機

### 一、概 説

氣體壓縮機は特殊のものを除けば、空氣の壓縮に用ひらるゝ空氣壓縮機と、アムモニア、炭酸瓦斯等の冷媒の壓縮に用ひらるゝ瓦斯壓縮機とに大別せらる。空氣壓縮機には往復動式と廻轉式とあれども、最も廣く使用せらるゝものは往復動式のものなり。然れども廻轉式ものは重量形體の輕小なること、振動の少きこと、高速運轉に適すること等の特徴を有する爲、最近漸次に需要を増しつゝあり。瓦斯壓縮機は冷媒の種類により幾分構造形式を異にし、空氣壓縮機と同じく往復動式と廻轉式とあれども、後者は未だ需要多からず。空氣壓縮機の製作技術は既に著しき發達を遂げ、製作工場も増加し、品質も概して優秀なるを以て、之が輸入は僅少に止まれり。瓦斯壓縮機に於ては國產品は比較的顧られざる状態にして、之が輸入額は相當の額に達し居れり。然れども最近は需要の激増に刺戟せられ、國產品の品質も著しく向上し來れるを以て輸入も漸次に防遏せらるゝものと考えらる。

### 二、輸出入狀況

(イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和五年	一、五二八・〇匁	二、〇二四、二〇四圓
昭和六年	三九二・四	六四二、六〇九
昭和七年	三四〇・二	八〇九、八〇二

(ロ) 輸出額

輸出額不詳なれども相當ある見込。

三、生産状況

(イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和五年	九、〇〇〇臺	三、一五〇、〇〇〇圓
昭和六年	二、〇〇〇	一、六三〇、〇〇〇
昭和七年	二、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇

(ロ) 主要生産者名及所在地名

株式会社日立製作所龜戸工場

東京市城東區龜戸町八ノ一八〇

株式会社井口鐵工所

東京市芝區白金志田町七三

北條鐵工所

東京市深川區猿江裏町三三

藤村機械株式會社

大阪市此花區江成町一六二

三國鐵工所

大阪市東淀川區三國本町三四ノ二

株式會社田中機械製作所

大阪市港區尻無川北通三ノ二〇

讚岐鐵工所

大阪市港區三先町五ノ八三

合名會社山陽鐵工所

大阪市港區九條南通三ノ二六一

長谷川鐵工所

大阪市港區市岡元町二ノ四〇

株式會社神戸製鋼所

神戸市葺合區協濱町一ノ三一

三菱造船株式會社神戸造船所

神戸市兵庫區和田崎町三丁目

三菱造船株式會社長崎造船所

長崎市飽浦町一丁目

四、内外品競争状況

(イ) 競争外國品の製造者名

インガートソール・ランド會社(米國)、ワシントン・ポンプ・エンド・マシーナリー會社(米國)、サ  
 リバン・マシーナリー會社(米國)、ペンシルバニア・ポンプ・エンド・コンプレッサー會社(米  
 國)、シカゴ・ニューマチック・ツール會社(米國)、ガードナー・デンバー會社(米國)、ヨーク會  
 社(米國)、ビルター會社(米國)、ブルーム・エンド・ウエード會社(英國)、リーベル會社(英  
 國)、ツルツァー會社(瑞西)

(ロ) 品質の比較

特殊用途のものは別として、普通用途の壓縮機に於ては、品質上外國品に劣ることなし。

(ニ) 價格の比較

小型壓縮機は大量的に生産せらるゝ關係にて、價格上動もすれば外國品に壓迫せらるゝ嫌ひあり  
 しが、最近に於ては爲替相場の關係にて國產品の方幾分低廉となれり。大型のものになれば國産  
 品の方遙かに低廉なり。

(三) 競争上不利及有利とする點

競争上特に不利及有利とする點は認められざれども、近時急激なる勃興を來せる冷凍工業に於て、  
 漸く品質の向上し來れる國産壓縮機が比較的顧みられざる傾向にあるは、本邦斯業の發達上極め

て遺憾とする處なり。

一一、空氣機械及工具

一、概 説

空氣機械工具は壓搾空氣を利用するものにして、空氣ハンマー、空氣ドリル、鑿岩機、空氣鋸打  
 機、空氣研磨機等の類なり。空氣ハンマー及鑿岩機は大正の初期より製作せられたれども、一般空氣  
 機械に於て外國品に競争するに至りたるは比較的最近のことなり。然れども品質は概して優秀にして、  
 漸次に外國品を驅逐しつつあり。空氣機械工具の輸入額は、昭和五年度に約四五萬圓、同六年度に約  
 二七萬圓、同七年度に約二八萬圓にして、最近二年間は著しく減少せり。之に反し本邦生産額は近年  
 著しく増加を來し、昭和七年度に於ては約七〇萬圓に激増せり。

二、輸出入狀況

(イ) 輸 入 額

年 次	數 量	價 額
昭和五年	七〇、三八二疋	四五三、五四四圓

昭和六年  
昭和七年

三七、六四三  
二四、二一八

二六四、九二九  
二七六、五〇七

二〇〇

(ロ) 輸出額 不詳

三、生産状況

(イ) 生産額

年次  
昭和五年  
昭和六年

價額  
五〇〇、〇〇〇圓  
三九四、〇〇〇

年次  
昭和七年

價額  
六九五、〇〇〇圓

(ロ) 主要生産者名及所在地名

株式會社 瓜生製作所  
古河鑛業株式會社 足尾製作所  
日本空氣機械工業所  
株式會社 宇品造船所

大阪市東區宮林町四  
栃木縣足尾町一、五〇〇  
東京市品川區大井北濱川町九六七  
廣島市元宇品町三〇〇

四、内外品競争状況

(イ) 競争外國品の製造者名

インガソール・ランド會社(米國)、シカゴ・ニューマチックツール會社(米國)、ガードナー・デ  
ンバー會社(米國)、クリップランド會社(米國)、アトラス・デイズル會社(瑞典)

(ロ) 品質の比較

從來品質に於て外國品に劣る嫌ひありしが、各種空氣機械の需要増加するに伴ひ、本邦生産者も  
之が研究を勵みたるを以て、最近に於ては外國品に遜色なき優秀品を出すに至れり。

(ハ) 價格の比較

從來概して國產品の方低廉なりしが、最近に於ては爲替相場の關係にて、相當の開きを生ぜり。

(ニ) 競争上不利及有利とする點

特に不利とする點は見られざれども、空氣機械には特殊鋼材を使用すること多く、之が供給の大  
部分を外國に仰ぐ爲め、價格の低下を圖る上に不利あり。

一三、自動車及同部分品

一、概説

本邦に於ける自動車使用臺數は近年著しき増加を示し、既に一〇萬臺を突破せる状態なれども、自

動車の製造に於ては、今尙ほ政府の保護を受けつゝあるものにして、斯業の確立には今後も相當の期間を要するものゝ如し。製作技術の上より見れば、貨物自動車に於ては既に相當の經驗を積み、同程度の輸入車に比し殆んど遜色を見ざれども、乗用自動車に於ては未だ日淺くして幾分遜色あるを免れず。部分品に於ては、補給部分品の需要著しく増加し、且又國産車の生産額も漸次に増加したるを以て之が製造業は近年著しく發達し、自動車用部分品にして製造せられざるものは殆んど無き状態なり。自動車及同部分品の輸入状況を見るに、昭和四年度を界として年々遞減の状態にあつしが、昭和七年度に於ては四年度(約三、三六〇萬圓)の四四%に減少せり。

二、輸出入状況

(イ) 輸入額 (部分品を含む)

内 譯	昭和五年		昭和六年		昭和七年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
完成車	二、五九一輛	一、八八七圓	三、三七八、〇六三圓	二、八九四、二三四圓	九九七輛	
シャシー	一、六〇九	一、二〇四	一、一三二、三一六	七〇三	八九二、八三二	
計						

タイヤ	數量		價額	
	數量	價額	數量	價額
タイヤ	二、四六八、一二四疋	一、五七八、三七四疋	三、〇八四、三二〇	四二二、二六二
其他部分品	一〇、二一五、二四七	九、七三四、四六九	一〇、六一一、〇九五	
計	二〇、七七三、七七〇	一六、三二九、一六八	一四、八二一、四二二	

備考 自動車部分品中には發電機、電動機、球軸受、齒車等の如き一般機械用と區別明瞭ならざる部分品及機關を含まず。

(ロ) 輸出額

爲替相場の關係にて最近タイヤ以外の或種の部分品にても輸出を見るものあれども、詳細不明なり。自動車用タイヤの輸出額は相當莫大なるものにして支那、南洋方面を主なる市場とす。

自動車用タイヤ輸出額

年次	數量	價額
昭和五年	不詳	
昭和六年	七三八、八四〇疋	一、〇九九、三五四圓
昭和七年	一、〇四八、一四〇	一、四七七、二八一

三、生産状況

(イ) 生産額

自動車

年次	數量	年次	數量
昭和五年	四五八輛	昭和七年	八一九輛(中一四四輛は小型車)
昭和六年	四三四		

部 分 品

年次	蓄電池	タイヤ及チューブ	其の他	計
昭和五年	九五〇、〇〇〇圓	二、〇〇〇、〇〇〇圓	一、二〇〇、〇〇〇圓	四、一五〇、〇〇〇圓
昭和六年	九五〇、〇〇〇	三、八〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	六、七五〇、〇〇〇
昭和七年	一、〇三〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	二、七〇〇、〇〇〇	一〇、七三〇、〇〇〇

備考

一、タイヤ及チューブの生産額中にはダンロップ護謨極東株式会社のものを含まず

二、其の他部分品中には、自動車製作工場にて製作する補給部分品、部分品素材及一般機械用と區別明瞭ならざるもの、例へば球軸受の如きものを含まず。

(口) 主要生産者名及所在地名

自 動 車

- 自動車工業株式会社 東京市京橋區新佃島西町三ノ五
- 東京瓦斯電氣工業株式会社 東京市大森區入新井一ノ一〇一

- 川崎車輛株式会社 神戸市林田區和田山通一ノ六
- 日本車輛製造株式会社 名古屋市南區熱田東町梅ノ木三三
- 三菱造船株式会社神戸造船所 神戸市湊西區和田崎町三丁目

部 分 品

電機部分品 (充電用發電機、始動用電動機、マグネトー、配電器等)

- 東亞電機株式会社 東京市澁谷區新橋一七
- 芝浦製作所 横濱市鶴見區末廣町二ノ四
- 國產電機株式会社 東京市豊島區高田南町三ノ七二三
- 蓄電池
  - 日本電池株式会社 京都市上京區新町通り今出川上ル
  - 湯淺蓄電池製造株式会社 大阪府三島郡高槻町古曾部
  - 日本蓄電池株式会社 東京市大森區入新井四ノ八〇二
  - 古河電氣工業株式会社 尼ヶ崎市東向島西之町
  - 株式會社神戸電機製作所 大阪市西淀川區浦江北五ノ一五

高田電池製造所

大阪市東淀川区野中北通三ノ一〇

點火栓

日本碍子株式會社

名古屋市南區堀田通二ノ一

立川製作所

東京府北多摩郡立川町三、〇四六

三葉商會

東京市淀橋區柏木二ノ五七〇

照明器具

西野製作所

東京市芝區濱松町一ノ五

合名會社白光舍

東京市王子區下十條町六六五

警報器

合資會社宮本喇叭製作所

東京市淺草區北元町二

泉谷製作所

東京市芝區今入町二四

氣化器

株式會社日本氣化器製作所

東京市品川區五反田一ノ三九四

東京瓦斯電氣工業株式會社

東京市大森區入新井一ノ一〇一

プレーキライニング、クラッチフエーシング

曙石綿工業所

東京市豊島區高田南町三ノ七五二

日本アスベスト株式會社

東京市品川區北品川四丁目

ダイヤモンドライニング營業所

東京市板橋區板橋二ノ一二六

二葉商會

大阪市西淀川區浦江北二ノ四六

計器類 (電流計、速度計、油壓計、タクシメーター、ガソリンメーター等)

品川製作所

東京市品川區北品川五ノ四二一

日本計器製造株式會社

東京市芝區新堀町二

大阪メーター株式會社

大阪市南區末吉橋通四ノ二六

ばね類

帝國發條株式會社

東京市向島區寺島町四ノ二三

東京鋼材株式會社

東京市城東區大島町六ノ五〇

放熱器

西村ラヂエーター製作所

東京市麻布區廣尾町一



タイヤ及チューブ

ブリツヂェストンタイヤ株式會社

福岡縣久留米市洗町一

横濱護謨製造株式會社

横濱市鶴見區平安町二ノ一七

東京護謨工業株式會社

東京市足立區日ノ出町一ノ三三五

内外護謨合資會社

神戸市林田區菅原通五ノ二

ピストン

進興社泉自動車製作所

東京市赤坂區田町六ノ三

日本アルミニウム製造所

大阪市西淀川區浦江北四ノ一九

プレツス品(フエンダー、制動輪、車輪、リム等)

海老原製作所

東京市品川區南品川一、五八九

杉山製作所

東京市城東區大島町七ノ一五九

ガスケツト

神西商店製作部

神戸市須磨區御屋敷通五ノ二一

川村製作所

東京市麻布區飯倉町二ノ二

齒車、車軸類

關製作所

東京市麻布區竹谷町二

東京ギヤ一製作所

東京市城東區龜戸町一ノ九八

#### 四、内外品競争狀況

##### (イ) 競争外國品の製造者名及品名

自動車

フォード會社(米國)乗用車及貨物車、ゼネラル・モーターズ會社(米國)乗用車及貨物車、ハドソン會社(米國)乗用車、クライスラー會社(米國)乗用車、ダツチブラザーズ會社(米國)乗用車及貨物車

部分品

ロバートボツシユ會社(獨逸)電機部分品、點火栓、ストロンバーグ會社(米國)氣化器、オートバック會社(米國)真空槽、フェロード會社(米國)クラツチフェーシング、プレーキライニング

##### (ロ) 品質の比較

貨物自動車に於ては外國品に比し殆んど遜色なし。

部分品に於ては、蓄電池、タイヤ等の如く外國品に比し何等遜色なく、既に多額の輸出をなすつゝあるものもあれども、其の他のものに於ては、未だ外國品に及ばざるもの相當あるが如し。

(ハ) 價格の比較

自動車の製作は未だ生産輛數尠き爲め、生産費は著しく嵩み、政府の保護なくしては外國品と有利に競争し得ざる状態なり。

部分品に於ては、概して國産品の方低廉なり。

(ニ) 競争上不利及有利とする點

自動車は未だ大量的に生産し得ざる事情にあること極めて不利とする處なり。

一四、自動自轉車 (サイドカーを含む)

一、概説

自動自轉車並にサイドカーは、實用的價值乏しき爲め、最近は自動三輪車或は小型自動車に壓倒せられ、需要の範圍も著しく狭められたる感あれども、軍部其の他の特殊方面にては缺ぐべからざる性質のものなる故、今後も相當の需要あるものと考へられる。

本邦に於て自動自轉車並にサイドカーの製作せらるゝに至りたるは比較的最近のことにして、未だ古き經驗を有せざれども、其の主體をなす空冷式ガソリン機關は、自動三輪車の擡頭するに及んで著しき進歩を遂げたるを以て、品質上外國製一流品に比し殆んど遜色を見ざる状態なり。而して需要範圍狹少なる爲め外國に於けるが如く大量的に生産し得ざる結果、價格上外國品と有利に競争し難き事情にあるものゝ如く考へらるれども、取引は専ら軍部其の他の特殊官廳にあるを以て、國産なる以上此點は比較的樂觀し得べく、従つて本邦に於ける生産能力が増大するに伴ひ、輸入は漸次防遏せらるゝものと思考す。

二、輸出入狀況

(イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和五年	一、九八五輛	九六一、八六七圓
昭和六年	一、五五一	七四七、六〇六
昭和七年	八五六	五八〇、一六七

(ロ) 輸出額 なし

三、生産狀況

(イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和五年	一二〇輛	一〇〇,〇〇〇圓
昭和六年	一五〇	一二〇,〇〇〇
昭和七年	二〇〇	三二〇,〇〇〇

(ロ) 主要生産者名及所在地名

株式会社國産シンドオートバイ製作所 廣島市南竹屋町五四五  
 日本内燃機株式會社 東京市大森區大森三ノ八五九

(四) 内外品競争狀況

(イ) 競争外國品の製造者名

ハーレーダビッドソン會社(米國)

(ロ) 品質の比較

本邦に於ける自動自轉車並にサイドカーの製作は、未だ古き經驗を有せざれども、最近に於ては世界一流品に比し殆んど遜色なきまでに至れり。

(ハ) 價格の比較

國產自動自轉車並にサイドカーは、現在主として官廳方面にて使用せらるゝ故、内外品の價格を嚴密なる意味に於て比較すること能はず。

(ニ) 競争上不利及有利とする點

本邦に於ける自動自轉車及サイドカーの需要は、大體軍部其の他の特殊方面に限られ、生産額も比較的少きを以て、外國に於ける如く大量的に生産し難き不利あり。

一五、縫衣機

一、概説

縫衣機は、需要の程度並に製造工程より見て大量生産的のものにして、久しき以前よりシンガミシン會社に依り世界市場は殆んど獨占せられたる状態なり。従つてシンガーの大資本に對抗して縫衣機の國産化を圖ることは、從來甚しく困難視せられたれども、最近バイン裁縫機械製造所にて優秀なる家庭用縫衣機の製造を見るに至れり。然れども工業用縫衣機の製造は未だ全然行はれず之が需要は盡く外國品の供給に俟ちつゝあり。縫衣機の輸入狀況を見るに、部分品及附屬品を含めて昭和五年度に約四〇七萬圓、同六年度に約二七四萬圓、同七年度に約三二七萬圓にして依然として相當の、額に

達し、之を本邦生産額に對比すれば著しく過大なり。

二、輸出入状況

(イ) 輸入額

品名	昭和五年	昭和六年	昭和七年
完成品	一、七八六、六二六疋	一、一八九、六八五疋	八五九、六七九疋
部分品及附屬品	三、九四〇、〇一八圓	二、六二七、九八一圓	三、一〇六、二七四圓
計	一、二六、七五一	一〇七、二七五	一五九、四七五
輸出額	四、〇六六、七六九	二、七三五、二五六	三、二六五、七四九

(ロ) 輸出額

爲替の關係にて少量の輸出あり。

三、生産状況

(イ) 生産額

品名	昭和五年	昭和六年	昭和七年
完成品	四、〇〇〇臺	五、〇〇〇臺	四、五〇〇臺
部分品及附屬品	一、二〇、〇〇〇圓	一、八〇、〇〇〇圓	二〇〇、〇〇〇圓
計	三、五、〇〇〇圓	四、〇、〇〇〇圓	五、〇、〇〇〇圓
計	一、五五、〇〇〇圓	二、二〇、〇〇〇圓	二、五〇、〇〇〇圓

(ロ) 主要生産者名及所在地名

完成品

バイン裁縫機械製造所

東京市瀧ノ川區西ヶ原二九七

部分品及附屬品

中島ミシン製造所

島根縣松江市御手船場町五六七

中村(小太郎)工場

大阪市東成區猪飼町一、五〇六

川端製作所

大阪市東成區今福町八二四

四、内外品競争状況

(イ) 競争外國品の製造者名

シンガミシン會社 (米國)

(ロ) 品質の比較

本邦にて製作せらるゝものは、家庭用縫衣機にして構造機能の優秀なること、使用材料の精選されたること等に於て、シンガミ家庭用縫衣機に比較し遜色なし。

(ハ) 價格の比較

世界市場を殆んど獨占して大量生産を行ひつゝあるシンガー縫衣機の生産費と、國産バイン縫衣機の生産費とは、到底比較にならざる程度のものなること疑を容れざる處なり。然れども本邦市場に廣く普及せられたるシンガー・ミシンに對抗する以上、國産品の販賣價格はシンガー以下に保つこと絶對的に必要なるを以て、本邦生産者は著しき苦境にありたるも、最近に於ては爲替相場との關係にてシンガーの價格は著しき昂騰を來したるを以て、國産品は價格上比較的有利なる狀況に立ち至れり。

四 (二) 競争上不利及有利とする點

シンガーの大資本に依る販賣組織の充實は、國産品の進出を阻止すること夥しく、競争上最も不利とする處なり。然れども最近の爲替相場に依る外國品の價格騰貴は、國産品を有利に導き、現在相當の競争餘力を有す。

一六、紡績機械

一、概説

紡績機械は取扱ふ原料により綿絲紡績用、絹紡績用、毛織紡績用、麻紡績用等に區別せられ、更

四 之を準備工程より仕上工程に亘つて分類すれば、多種多様にして其の種類頗る多し。綿絲紡績機械は大戦前は殆んど總て英國品を使用せしが、戦時中之が供給不足を來し、而も本邦紡績業は著しき繁忙を來せし爲め米國品も一時使用せられたり。戦争終結後再び英國品の使用盛んとなりしが、當時獨逸、瑞西等より新形式の優秀なるもの輸入せられしを以て、英國品は漸次其の獨占的地位を失ふに至れり。而して戦時中國内に擡頭せる紡績機械製造業は、此の期に及んで愈々盛となり、漸次に輸入品を驅逐するの狀態を呈せしが、最近に於ては爲替相場の關係にて著しき躍進を示し、少量ながら輸出を見るの狀態なり。絹紡績機械、毛織紡績機械等の製造は、綿絲紡績機械の如き發達は見ざれども、之が主要原因は需要の比較的僅少なることにあるものにして、最近漸次發達の傾向を辿りつゝあり。斯の如き狀態にして、本邦紡績機械製造業は近年著しき發達を遂げ、既に或程度の輸入防遏を見たれども、未だ輸入額は相當巨額に達せり。

二、輸出入狀況

(イ) 輸入額

年次  
昭和五年

數量

八、六三〇・三噸

價額

六、三六五、二二三圓

昭和六年  
昭和七年

四、五七四・九  
八、四一九・〇

三、五一二、四三三  
七、九九八、二五四

(ロ) 輸出額

不詳なれども少量の輸出ある見込。

三、生産状況

(イ) 生産額 (器具を含む)

年次	金額	年次	金額
昭和五年	四、二九七、〇〇〇圓	昭和七年	
昭和六年	六、〇三九、〇〇〇		

(ロ) 主要生産者名及所在地名

- 株式会社豊田自動織機製作所 愛知縣碧海郡川谷町大字熊字油木二
- 株式会社大阪機械製作所 大阪市此花區大開町二丁目七二
- 株式会社大阪機械工作所 大阪市東淀川區豊崎西通一ノ一〇
- 豊田式織機株式會社 名古屋市西區島崎町一

四、内外品競争状況

(イ) 競争外國品の製造者名

ドブソン會社(英國)、プラット會社(英國)、ハワード會社(英國)、リーター會社(瑞西)

(ロ) 品質の比較

最近は國産紡績機械の品質も著しく向上し、外國品に劣らざるものあり。

(ハ) 價格の比較

従來外國品の方低廉なりしが、最近は爲替相場の關係にて、國產品の方幾分低廉となれり。

(ニ) 競争上不利及有利とする點

外國にては大量的に生産せらるゝ結果、従來價格上競争困難なる不利ありしが、最近に於ては爲替相場の關係にて幾分有利に轉換せり。然れども一般使用者は久しく外國品の使用に慣れたる爲、國產品にして優秀なるものあるに拘らず、外國品を偏重する嫌ひあるは、斯業の發展上遺憾とする處なり。

一六、織布整理機

一、概説

織布整理機とは織布を整理加工する機械類の總稱にして、織布に糊を施す糊付機械、濕氣を與ふる濕潤機械、光澤を與ふる艶出機械、其の他幅出機、壓控機械、折疊機械等種類多し。本品は大部分内地に於て製造せらるゝも、艶出機械其の他の大形のもの及新型のものを輸入することありて相當の額に達せり。

二、輸出入狀況

(イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和五年	三六九・〇吨	三七五、四五七圓
昭和六年	一七六・五	一六一、三二一
昭和七年	二二六・六	三四二、三八二

(ロ) 輸出額 不詳

三、生産狀況

(イ) 生産額

年次	價額	年次	價額
昭和五年	七八六、〇〇〇圓	昭和七年	

昭和六年

八四〇、〇〇〇

(ロ) 主要生産者名及所在地名

- 河本製機所 (河本萬造) 名古屋市東區布池町一
- 由利製作所 (由利達之助) 京都市中京區壬生坊城町
- 喜多鐵工所 東京市本所區太平町二ノ一八
- 佐野鐵工所 東京市芝區三田三光町
- 和歌山鐵工株式会社 和歌山市南片原町

四、内外品競争狀況

(イ) 競争外國品の製造者名

- マザー・エンド・プラット會社(英國)、ファーマーノルトン會社(英國)、フンボルト會社(獨逸)、
- ハース會社(獨逸)

(ロ) 品質の比較

本邦製品は概して外國品に比し遜色なきも材質、加工の精度等に於て外國一流品に劣るものあり。

(ハ) 価格の比較

概して國產品の方低廉なり。

(ニ) 競争上不利及有利とする點

特殊品を除けば、國產品は競争上有利の状態にあり。

一七、メリヤス機械

一、概 説

メリヤス機械は、筒編用のものと横編用のものとに大別し得れども、其の種類極めて多し。本邦に於ては、家内工業的に小規模なる設備を以てメリヤス製品の製造に従事するもの多き爲、特殊の精巧なる機械よりも寧ろ簡單なる機械の方歓迎せらるゝ傾向あるを以て、國産メリヤス機械は此方面に向つて著しき發達を遂げ、外國品は殆んど驅逐せられたる状態にして、現在輸入せらるゝものは特殊のものに限れり。メリヤス機械の輸入状況を見るに昭和五年度に於ては約八一萬圓、同六年度に於ては約一五萬圓、同七年度に於ては約八萬圓にして、頗る顯著なる減少を示し、輸入は殆んど防遏せられ

たる状態なり。

二、輸出入状況

(イ) 輸 入 額

年 次	數 量	價 額
昭和五年	六六八・八吨	八一四、四二三圓
昭和六年	三七・三	一四五、六七五
昭和七年	二一・八	七五、三九一

(ロ) 輸 出 額 不詳

三、生産状況

(イ) 生 産 額

年 次	價 額	年 次	價 額
昭和五年	四六三、四〇〇圓	昭和七年 (推定)	五〇〇、〇〇〇圓
昭和六年	三一〇、八〇〇		

(ロ) 主要生産者名及所在地名

永田メリヤス機械株式會社

東京市豊島區西巢鴨三ノ九〇八



#### 四、内外品競争状況

##### (イ) 競争外國品の製造者名

スコット・ウイリアム會社(米國)、プリンントン會社(米國)、テキスタイル・サウザン會社(米國)、  
テロット會社(獨逸)、ハーガー會社(獨逸)、レボシー會社(佛國)、ダビー會社(瑞西)

##### (ロ) 品質の比較

國産メリヤス機械は國産綿絲、絹絲、人絹絲等に適する如き構造を有する故、極めて特殊なるものを除く外、概して國產品の方優秀なり。

##### (ハ) 價格の比較

概して國產品の方低廉なり。殊に最近は爲替相場の關係にて、外國品は窮地にあるが如し。

##### (ニ) 競争上不利及有利とする點

特に競争上不利及有利とする點はなきもの、如くなれども、價格の低廉なるは國產品の有利とする處なり。

### 一八、印刷機械

#### 一、概説

印刷機械は凸版印刷機械、平版印刷機及凹版印刷機の三種に大別することを得。之等を更に細別すれば種々雜多なれども、二回轉式凸版印刷機及輪轉機は凸版印刷機械に屬し、オフセット印刷機は平版印刷機械の代表的のものであり、グラビア印刷機は凹版印刷機械に屬するものなり。本邦に於ける印刷機械製造業は近年著しき發達を遂げ、二回轉式凸版印刷機、高速輪轉機、オフセット印刷機、グラビア印刷機等の高級品も多數製作せられ普通の印刷機械に於ては輸入は殆んど見ざる狀況なり。

斯業の發達の過程を如實に示すものは輸入額の著しき遞減にして、大正十四年度に約二〇六萬圓に達せしものが昭和三年度には約一五八萬圓となり、同五年度には約六九萬圓となり、更に同七年度には約二九萬圓に激減せり。而して本邦生産額は、昭和七年度に於ては三五〇萬圓に達し、之を數年前の生産額に比すれば、長足の躍進と云ふを得べし。

#### 二、輸出入狀況

##### (イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和五年	三三九、〇〇七疋	六九〇、一〇六圓
		二二五

(ロ) 輸出額

年次	數量	價額
昭和六年	一一六、二二四	一九五、一二五
昭和七年	一九二、七二二	二九一、一二五
昭和五年	二九六、〇〇九	三〇四、五三五
昭和六年	二四二、二〇七	二四八、六一一
昭和七年	四三八、三三四	三七一、五〇五

三、生産状況

(イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和五年	三〇〇臺	三、五〇〇、〇〇〇圓
昭和六年	三〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
昭和七年	三五〇	三、五〇〇、〇〇〇

(ロ) 主要生産者名及所在地名

- 中島機械工場 (中島幾三郎) 大阪市東淀川区三國本町
- 濱田印刷機製作所 (濱田初次郎) 東京市城東區龜戸町一ノ九八

- 株式会社池貝鐵工所 東京市芝區本芝下町一八
- 合名會社中村鐵工所 東京市本所區厩橋三ノ二
- 株式會社東京機械製作所 東京市芝區三田四國町一五
- 本多印刷製本機械製作所 東京市深川區新安宅町二〇

四、内外品競争状況

(イ) 競争外國品の製造者名

- ホー會社(米國)、ポッターハリス會社(米國)、ミール會社(米國)、アルバート會社(獨逸)、ケ  
ーニヒ・パウエル會社(獨逸)

(ロ) 品質の比較

最近に於てはオフセット印刷機、二回轉式印刷機、高速輪轉機等の高級品も多數製作せられ、何れも機能精巧にして、外國品に比し遜色なし。

(ハ) 價格の比較

特殊のものを除き、普通用途の印刷機に於ては従來國產品の方幾分低廉なりしが、最近に於ては爲替相場の關係にて、外國品は著しき騰貴を見たり。

(二) 競争上不利及有利とする點

外國品との競争上特に不利及有利とする點は認められざれども、最近の爲替相場は國産品の海外進出に絶好の機會を與へたり。

一九、懷中時計 (腕巻時計を含む)

一、概説

懷中時計の要部たる機械部(ムーブメント)の製造には、極めて精密なる工作を要し、組立調整等にも優秀なる技術を必要とす。本邦に於ける懷中時計の製作は明治三十年頃より始まり機械部の製造に於ては種々の困難に遭遇したるも、側の製造に於ては急速なる進歩を見、大正の初期に於て既に需要の大部分を内地に於て供給するに至れり。其の後腕巻時計の流行するに及び、之が製造も開始せられ、斯業も漸く殷賑を來せしが、最近に於ては鐵道用の精確なる時計をも供給するに至れり。

懷中時計の輸入状況を見るに、昭和五年度に於ては約四四〇萬圓(部分品を含む)、同六年度に於ては約二五〇萬圓(同上)、同七年度に於ては約二九〇萬圓(同上)にして、未だ相當巨額に達すれども最近爲替相場の關係にて輸入品の價額は著しく騰貴したるを以て、國産品の需要に頓に増大せり。

二、輸出入状況

(イ) 輸入額

品名	昭和五年		昭和六年		昭和七年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
懷中時計	四三、四〇一 <small>箇</small>	五七、一六七 <small>四</small>	一四、九〇九 <small>箇</small>	三二、一七二 <small>四</small>	一六、四八四 <small>箇</small>	五二、一〇〇 <small>四</small>
(内譯)						
金側及白金側	四九	一四、五六四	一六	三、四六九	三七	二六、七〇〇
銀側及鍍金側	三、五〇三	八三、六六一	二、六三三	七、一三六	八五	三六、八七
其の他	三九、四九九	四七四、四一六	二、五五四	二九七、二七六	二五、三〇五	四六七、八〇三
部分品		三八七、七四		二、一〇一、二五〇		二、三三四、七三六
(内譯)						
ムーブメント	三三、八〇七	二、二三一、五四五	一四、三三七	一、〇〇三、六七七	八九、二四八	九四、五八四
其他		一、五六一、六九		一、〇九八、五七三		一、三八〇、一七三
合計		四、三九〇、三六五		二、四七三、三三		二、八五、一三六

(ロ) 輸出額

輸出額不詳なるも少量の輸出ある見込なり。

三、生産状況

(イ) 生産額 (部分品を含まず)

年次	數量	價額
昭和五年	一八〇、〇〇〇筒	一、〇〇〇、〇〇〇圓
昭和六年	一七〇、〇〇〇	六六〇、〇〇〇
昭和七年	二〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇

(ロ) 主要生産者名及所在地名

精工舎(株式會社服部時計店工場) 東京市本所區太平町四ノ二  
 シチズン時計株式會社 東京市淀橋區戸塚町四ノ八五六

四、内外品競争状況

(イ) 競争外國品の製造者名

ウォルサム會社(米國)、エルデン會社(米國)、ゼニット會社(瑞西)、ナルダン會社(瑞西)、バルカン會社(瑞西)、モリス會社(瑞西)、タバン會社(瑞西)

(ロ) 品質の比較

高級品及特殊品は未だ本邦にて製作せられざれども、鐵道用其他比較的高級なる懷中時計に於ては、二四時間時差二〇秒以内と云ふ優秀なるもの製作せられ、同程度の外國品に比し何等遜色

なし。腕巻時計に於ても實用向のもの製作せられ、品質比較的優秀にして、頗る好評を博しつゝあり。

(ハ) 價格の比較

従來より概して國產品の方低廉なりしが、最近に於ては爲替相場の關係にて、國產品は著しく低廉となれり。

(ニ) 競争上不利及有利とする點

國產品は部分品の補給自由なるを以て、修理上の便利大なるを有利とすれども、國產品の眞價が未だ一般的に認められざるを甚だ遺憾とす。

110、レンズ

一、概説

レンズは眼鏡、擴大鏡を始とし、顯微鏡、望遠鏡、寫真器等凡ゆる光學器械類に使用せらるゝものにして用途頗る廣汎なり。眼鏡、擴大鏡等に用ひらるゝ普通レンズは、製作比較的容易にして手工に依ること多きを以て、小規模にて之が製作をなす者多く、相當の生産あれども、寫真器、顯微鏡等に

用ふる高級レンズに於ては、設計、加工及検査に特殊の技術と設備とを要する爲め、未だ製造發達し居らざれども、最近之が本格的な研究をなす者出で漸次發達の傾向にあり。而してレンズの原材料たる光學用硝子には優秀なる國産品無き爲め、高級レンズの製作は著しく不利なる事情にありしが、最近大阪工業試験所にて之が製作に關する研究完成したるを以て、早晚此の種高級硝子の供給開始せらるゝものと考へらる。

二、輸出入狀況

(イ) 輸入額

一、寫眞器用レンズ

品名	昭和五年 價額	昭和六年 價額	昭和七年 價額
焦點距離一七種未満のもの	二四、一九一圓	一〇、五一五圓	
其他	一八八、二五六	一〇八、六〇二	
計	二二二、四四七	一一九、一一七	

二、其他光學用レンズ

品名	昭和五年 價額	昭和六年 價額	昭和七年 價額
磨かざるもの	五八二圓	一、三三七圓	
其他	四、四四三	二、四六三	
計	五、〇二五	三、八〇〇	

(ロ) 輸出額

數量不詳なれども眼鏡用レンズには少量の輸出あり。

三、生産狀況

(イ) 生産額 (プリズムを含む)

年次	價額	年次	價額
昭和五年	四〇三、〇〇圓	昭和七年	
昭和六年	四三三、〇〇〇		

(ロ) 主要生産者名及所在地名

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| 日本光學工業株式會社(芝工場) | 東京市芝區三田豊岡町一三  |
| サクラ印レンズ工業株式會社   | 東京市下谷區三ノ輪町一〇一 |
| 旭光學工業株式會社       | 東京市豊島區西巢鴨町    |

合資會社富岡光學機械製造所

東京市大森區雪ヶ谷町八六四

#### 四、内外品競争狀況

##### (イ) 競争外國品の製造者名

カールツァイス會社(獨逸)、ローデンストック會社(獨逸)、エンゲブツシュ會社(獨逸)、ポツシユロム會社(米國)

##### (ロ) 品質の比較

眼鏡用レンズに於ては、外國品に劣らざる優良品あれども、其の他の高級レンズに於ては、未だ外國品に及ばざるものゝ如し。

##### (ハ) 價格の比較

眼鏡用レンズは外國品に比し著しく低廉なり。

##### (ニ) 競争上不利及有利とする點

本邦にては優秀なる光學用硝子生地生産乏しき爲め、高級レンズの製作は極めて不利なる事情にあり。

### 二二、顯微鏡

#### 一、概説

顯微鏡は用途により構造形式を異にし、生物用、鑛物用、金屬用等種々なるものあり。本邦に於ける顯微鏡の製作は近年著しき進歩を見、普通用途のものに於ては外國一流品に比し殆んど遜色なきを以て、専ら國産品が使用せらるゝ状態にして、最近に於ては金屬顯微鏡も外國品に劣らざるもの製作せられ、尙ほ進んで最高級品たるアポクロマト對物鏡付顯微鏡をも研究中なり。

輸入額は昭和五年度に約三二萬圓、同六年度に約一七萬圓、同七年度に約二六萬圓にして著しき増減を見ざれども、本邦生産額は逐年増加し、昭和七年度に於ては四二萬圓に達せり。

#### 二、輸出入狀況

##### (イ) 輸入額 (部分品を含む)

年次	價額	年次	價額
昭和五年	三二四、〇六九圓	昭和七年	二五五、四八〇圓
昭和六年	一六六、三三五		

##### (ロ) 輸出額

未だ輸出を見ざるものゝ如し。

#### 三、生産狀況

(イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和五年	三、三〇〇臺	三六八、〇〇〇圓
昭和六年	三、五〇〇	三九〇、〇〇〇
昭和七年	三、六〇〇	四二〇、〇〇〇

(ロ) 主要生産者名及所在地名

株式会社高千穂製作所 東京市澁谷區幡ヶ谷原町八四五  
 合資會社松本製作所 東京市本所區太平町二ノ三

四、内外品競争状況

(イ) 競争外國品の製造者名

カールツァイス會社(獨逸)、エルンストライツ會社(獨逸)、ライヘルト會社(埃太利)

(ロ) 品質の比較

普通用途のものに於ては、外國一流品に比し殆んど遜色を認めず。

(ハ) 價格の比較

價格に於ては外國品の追従を許さざるものにして、極めて廉價に供給されつゝあり。

(ニ) 競争上不利及有利とする點

普通用途のものに於ては、品質優秀にして價格も亦極めて低廉なるを以て、外國品との競争上不利とする點は認められず。然れども光學用硝子の製造が未だ本邦に於て工業化し居らざるは、斯業の發達上極めて不利とする處なり。

二二、測量器械

一、概説

測量器械には多くの種類あれども、最も主要なるものは、水平角及垂直角の測定に使用せらるゝ經緯儀と高低測量に使用せらるゝ水準儀とにして、何れも精密なる加工を要し、製作上特殊の技術を要する點あり。本邦に於ける本器械の製造は遠く明治初年に始まり、長き歴史と經驗とを有し、殊に近年技術の著しき進歩に依り、歐米一流品に比し殆んど遜色なきに至りたるも、尙ほ輸入品を使用するもの尠からざる状態にして、年額三四十萬圓程度の輸入あり。

二、輸出入状況

(イ) 輸入額 (部分品を含む)

年次	價額	年次	價額
昭和五年	三一七、七一圓	昭和七年	二三八
昭和六年	四一八、四九七		

(ロ) 輸出額 不詳

三、生産状況

(イ) 生産額 (水準儀及經緯儀)

年次	數量	價額
昭和五年	一、五六〇臺	三三六、四〇〇圓
昭和六年	一、五一〇	三二五、六〇〇
昭和七年	二、七四〇	五六四、九〇〇

(ロ) 主要生産者名及所在地名

- 玉屋測量器械製作所 東京市澁谷區原宿一ノ一〇二
- 測 機 舍 東京市世田ヶ谷區三宿町三九〇
- 株式會社中村淺吉測量器械店 東京市足立區千住元町四五
- 株式會社服部時計店精工舍 東京市瀧野川區西ヶ原町九七四
- 東京市本所區太平町四ノ二

四、内外品競争状況

(イ) 競争外國品の製造者名

ガーレー會社(米國)、ワッツ會社(英國)、カールツアイス會社(獨逸)

(ロ) 品質の比較

測量器械は近時長足の進歩を遂げ、品質上外國品に劣る點なし。

(ハ) 價格の比較

従來國產品の方遙かに低廉なりしが、最近に於ては爲替相場の關係にて一層著しき開きを來せり。

(ニ) 競争上不利及有利とする點

價格の著しく低廉なるは國產品の進出上極めて有利とする處なれども、光學用硝子生地に優秀なる國產品乏しきは、之が需給上圓滑を缺くことありて不利なり。

二、寫眞器機

一、概 説

寫眞器は据付寫眞機と携帯用寫眞器とに大別せられ、特殊品としては顯微鏡寫眞器、望遠寫眞器、航空用寫眞器等あり。本邦に於ける寫眞器械の製造は遠く明治初年に始まりたるも、従來暗函及其の



他の附屬品の製作を主とし、レンズ、シャッター等の主要部分は輸入品を使用する状態なりしが、最近に於ては之等主要部分の製造をも開始するに至り、既に相當優秀なる製品を出しつつあり。

寫真器の輸入状況を見るに年額二〇萬圓程度（部分品及活動寫真攝影機を含まず）にして輸入せらるゝ品種は携帯用高級寫真器を主とす。

### 二、輸出入状況

#### (イ) 輸入額 (部分品及活動寫真攝影機を含まず)

年次	數量	價額
昭和五年	一一、三七五個	一六九、五八三圓
昭和六年	二四、三三九	二〇八、〇二九
昭和七年		

#### (ロ) 輸出額

大形暗函は品質上外國品に劣らざる爲め、支那南洋方面へ少量の輸出あり。

### 三、生産状況

#### (イ) 生産額 (特殊寫真器を含まず)

年次	價額	年次	價額
昭和五年	三五〇、〇〇〇圓	昭和七年	三五〇、〇〇〇圓
昭和六年	四七〇、〇〇〇		

#### (ロ) 主要生産者名及所在地名

合資會社 小西六本店 東京市淀橋區十二社三二〇

淺沼商會寫真機工場 東京市江戸川區小松川町

### 四、内外品競争状況

#### (イ) 競争外國品の製造者名

アンスコ會社(米國)、イーストマンコダック會社(米國)、ツアイスイコン會社(獨逸)、アグフ  
 アー會社(獨逸)、イカー會社(獨逸)、ホクトレンタル會社(獨逸)、エルネマン會社(獨逸)、ソ  
 ルントン會社(英國)

#### (ロ) 品質の比較

携帯用暗函、室内暗函、製版暗函は外國品よりも寧ろ優秀なり。手提寫真機は、高級品にありて  
 は未だ本邦にて餘り製作せられざれども、普通の寫真機に於ては、同一程度の外國品に比し遜色  
 を認めず。レンズ、シャッター等に付ても研究中なるを以て、近く外國品に劣らざるもの出現す

る見込なり。

(ハ) 価格の比較

手提寫真機に付て見るに、昭和六年度に於ては外國品より一、二割、同七年度に於ては二、三割以上低廉なり。

(ニ) 競争上不利及有利とする點

レンズ用硝子生地に優秀なる國產品乏しきは、國產寫真器の進出上極めて不利とする處なるも、其の加工は本邦人に適する作業なるを以て、硝子の製造に關する研究進むに従ひ、有利なる状態に轉換するものと考へらる。

二四、活動寫真映寫機及撮影機

一、概説

本邦に於ける活動寫真機械の製作は映寫機を主とし、既に相當の發達を遂げたるものにして、映寫機に於ては興行用家庭用、共に外國品に劣らざる優秀品あり。然れども撮影機に於ては未だ外國品に劣り、而も最近急激に需要の増加を來せる小型撮影機は、今尙ほ試作的過程にある状態なり。輸入額

は漸次遞減の傾向にあれども、未だ相當の額に達する状態にして、斯業の現状よりすれば、完全なる輸入防遏を見る迄には、今後相當の期間を要するもの、如く考へらる。

二、輸出入状況

(イ) 輸入額

A、活動寫真映寫機及同部分品

年次	價額	年次	價額
昭和五年	五〇七、〇五二圓	昭和七年	四六
昭和六年	四七四、八二七		

B、活動寫真撮影機

年次	數量	價額
昭和五年	三、六〇一個	三三六、四四七圓
昭和六年	三、三二六	三一五、九三二
昭和七年		

(ロ) 輸出額

不詳なれども無き見込。

### 三、生産状況

#### (イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和五年	二一〇臺	一〇八、〇〇〇圓
昭和六年	二四〇	一一〇、〇〇〇
昭和七年	三〇〇	一四〇、〇〇〇

#### (ロ) 主要生産者名及所在地名

高 密 工 場  
 東京市豊島區西巢鴨一丁目  
 東京市小石川區關口水道町四六

### 四、内外品競争状況

#### (イ) 競争外國品の製造者名

アンドリュウ・デブリウ會社(佛國)、エルネマン會社(獨逸)、カールツアイス會社(獨逸)、デブリウ  
 コーポレーション(米國)、インターナショナル・プロジェクト・コーポレーション(米國)

#### (ロ) 品質の比較

映寫機に於ては、興行用、家庭用共に外國品に劣らざれども、撮影機に於ては今尙ほ外國品に及

ばざる點あり。

#### (ハ) 價格の比較

國產品の方低廉なり

#### (ニ) 競争上不利及有利とする點

國產品は生産數量尠きにも拘らず、比較的低廉に供給しつゝあれども、未だ外國品偏重の傾向息  
 まざるは、斯業の振興上極めて不利とする處なり。

## 二五、計 算 器

### 一、概 説

本邦に於ける計算器の製造は大正八年頃に始まり、爾來苦心改良を續けたる結果、現在に於ては外  
 國品に劣らざる優良品を製作するに至れり。而して今日迄斯業の發達に努めたるものはタイガー計算  
 器株式會社にして、目下各種のものを製作しつゝあり。國産計算器の特徴とする處は、機能の確實な  
 ること、構造の堅牢なること、小型輕量なること等にして、價格も外國品に比し著しく低廉なるを以  
 て、外國品は漸次に驅逐せられ、國産計算器の需要は相當喚起せられたり。

二、輸出入状況

(イ) 輸入額

計算器單獨の輸入額不詳なるを以て、キャッシュレジスター、計算器類及同部分品の輸入額を掲ぐ。

年次	價額	年次	價額
昭和五年	五九一、〇三七圓	昭和七年	三四六、〇七六
昭和六年	五四二、三一三		

(ロ) 輸出額

未だ輸出を見ず。

三、生産状況

(イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和五年	九〇〇臺	三六〇、〇〇〇圓
昭和六年	八〇〇	三二〇、〇〇〇
昭和七年	一、二〇〇	四八〇、〇〇〇

(ロ) 主要生産者名及所在地名

タイガー計算器株式会社

大阪市西淀川區海老江上四ノ一四

四、内外品競争状況

(イ) 競争外國品の製造者名 不詳

(ロ) 品質の比較

國産計算器は機能の正確なること、構造の堅牢なること、小型輕量なること等の特徴を有し、品質に於て絶對に外國品に劣ることなし。

(ハ) 價格の比較

國産品の價格は從來外國品に比し二、三割低廉なり。

(ニ) 競争上不利及有利とする點

國産品は品質優秀にして價格も亦低廉なる利點あるを以て外國品との競争上不利とする點なし。

二六、金錢登録器

一、概説

本邦に於ける金錢登録器の製造は、比較的最近に起りたるものなれども、既に外國品に對抗して相

當の進出を見たり。而して金銭登録器の使用は時代の傾向として益々促進せられ、要需は逐年増加しつゝあるを以て、内外品の競争は今後一層激化するものと考らる。然れども現在は爲替相場の關係にて國産品は極めて有利なる事情にあるを以て、既に販路を海外に開拓し、少量ながら輸出を見るの勢なり。

二、輸出入状況

(イ) 輸入額

年次	價額	年次	價額
昭和五年	五九一、〇三七圓	昭和七年	三四六、〇七六圓
昭和六年	五四二、三一三		

(但し金銭登録器の外、計算器類及之等の部分品を含む)

(ロ) 輸出額

最近の爲替相場は國産品の進出に絶好の機會を與へ、少量ながらフィリッピン、南洋方面に輸出せらるゝに至れり。

三、生産状況

(イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和五年	七七〇臺	四六三、〇〇〇圓
昭和六年	一、〇三〇	六一九、〇〇〇
昭和七年	一、五〇〇	七五〇、〇〇〇

(ロ) 主要生産者名及所在地名

日本金銭登録機械株式會社

(大仁工場) 静岡縣田方郡田中村大仁五七三  
(東京工場) 東京市芝區三田四國町二

四、内外品競争状況

(イ) 競争外國品の製造者名

ナシヨナル・キャツシユレヂスター會社 (米國)

(ロ) 品質の比較

構造、機構竝に外觀に於て、外國品に劣る點なし。

(ハ) 價格の比較

従前動もすれば價格の點に於て外國品との競争困難なりしが、最近に於ては爲替相場の關係にて、外國品より著しく低廉となれり。

(ニ) 競争上不利及有利とする點

現在爲替關係に依り國產品の價格著しく低廉なるは、外國品との競争上極めて有利とする處なるが、未だ一般使用者に外國品偏重の傾向あるを遺憾とす。

## 二七、樂器及同部分品

### 一、概 説

洋樂器の需要は近時益々増進したるも、之に對する本邦斯業の發達も蓋し著しきものにして、今や各種類に付輸入對抗品を製出するに至れり。即ち今主なる樂器に就て見るに、オルガンは明治二十年初めて濱松市に製造を見たるものなるが、其の後輸入品の壓迫と經濟界の不況等により之が進歩遅々たりしが、日清戦争後大飛躍をなし、輸入品を驅逐すると共に海外輸出に迄進展し、大正二、三年には名古屋に、昭和二年には濱松に同業者の勃興を見たり。ピアノも等しく濱松市に於て明治三十二三年頃初めて作られたるものなるが、其の當時より之が輸入も逐年激増し、本邦に於ける之が製造も益々研究せられ、特に歐洲戦争により歐洲方面よりの輸入の杜絶するに伴ひ、内地品の急激なる増産を示し、現在に於ては静岡、神奈川、愛知其の他の諸地方に優良品を産出するに至れり。ヴァイオリンの製造は明治二十一年頃より名古屋地方に創められたるものにして、其の後に於ける斯業の發展目醒

しきものあり、特殊品以外の輸入を防遏し、更に進んで大正以後には多額の輸出をなすに至れり。

歐洲戦争後マンドリン、セロ其の他の絃樂器の輸入益々増大したるに鑑み名古屋地方に於ける製造研究も頗る發達し、輸入品に比し遜色なきものを製出するに至れり。ハーモニカの製造は明治二十四五年頃より輸入品の模倣により創められたるも、當時は玩具の程度に過ぎず、明治の末年頃に至り樂器としての形態を備へ、歐洲戦争當時以來は殆んど輸入品を防遏して今日に至れり。樂器の原材料はピアノ用鋼練、ヴァイオリン用馬毛等を除くの外は殆んど内地品にして、オルガンリード、ピアノアクション等輸入する物品は極めて少なし。

### 二、輸出入狀況

#### (イ) 輸 入 額

歐洲戦争前にありては洋樂の普及遅々たりし爲め輸入品の種類もオルガン、ヴァイオリン、ハーモニカ、豎型ピアノ等を主なるものとなし、年額十萬圓程度の輸入に過ぎざりしが、平和克復後の普及甚大なるものあり、平型ピアノ及マンドリン、セロ其の他の絃樂器或は管樂器等あらゆる種類の輸入追年増大し、其の額も二百萬圓の巨額に達したることあり。然るに他面内地製造の發達亦著しきものありたる爲、數年以前より毎年輸入減退しつつあり。而して近時輸入せらるゝも

のは、獨逸を主産地とするピアノ、同部分品及伊太利、獨逸を主産地とする絃樂器等を主なるものとす。

樂器同部分品及附屬品年別輸入額

年次	價額
昭和五年	五七六、二四九圓
昭和六年	三七五、四〇五
昭和七年	二九六、九六六圓

ピアノ(平形のもの)國別輸入額 (昭和七年)

國名	數量	價額
關東州	二四二庇	一、二〇〇圓
英吉利	三〇〇	一、〇〇〇
獨逸	四、〇六〇	三〇、二二三
和蘭	二七〇	四五〇
北米合衆國	三一三	一、五六〇
計	五、一八五	三四、四三三
中華民國	二二二庇	五六六圓

ピアノ(其他)國別輸入額 (昭和七年)

國名	數量	價額
中華民國	二二二庇	五六六圓

國名	數量	價額
關東州	二二一	五七七
英吉利	四、四五七	六、七七〇
佛蘭西	三五二	七四三
獨逸	七、九四〇	三一、三〇六
埃地利	二五三	一、〇八二
和蘭	二七〇	四〇〇
露西亞	一七七	三〇〇
葡萄牙	一五〇	二〇〇
北米合衆國	七九一	一、三五一
計	一四、八二三	四三、二九五

オルガン國別輸入額 (昭和七年)

國名	數量	價額
佛蘭西	一五〇庇	五四六圓
獨逸	二、六四二	一〇、一三〇
和蘭	一〇二	一八〇
計	二、八九四	一〇、八五六

ハーモニカ國別輸入額 (昭和七年)

國名	數量	價額
獨逸	一七個	二五四
伊太利	一七	四圓
瑞西		四圓
チエツコスロバキア		四
計		

其の他の樂器國別輸入額 (昭和七年)

國名	數量	價額
中華民國	五五圓	一六、三九八圓
英領印度	七	六、六三二
蘭領印度	六三	一四五
英吉利	一五七	三、七五六
佛蘭西	五、五二一	五四三
諾威	一、二三五	四六、八三一
北米合衆國	一二、三一九	
計		

樂器部分品及附屬品(絃卷用ピアノピン)國別輸入額 (昭和七年)

國名	數量	價額
英吉利	一五八疋	一五五圓
獨逸	一一、八三一	七、一八三
北米合衆國	四	三三
計		七、三七一

樂器部分品及附屬品(オルガンリード)國別輸入額 (昭和七年)

國名	數量	價額
獨逸	二、三二九疋	一五、八九六圓
北米合衆國	四、四七九	二八、〇二一
計		四三、九一七

樂器部分品及附屬品(鍵盤用象牙板)國別輸入額 (昭和七年)

國名	數量	價額
獨逸	四九	二、一〇七
計	四九	二、一〇七

樂器部分品及附屬品(其他)國別輸入額 (昭和七年)

國名	價額
中華民國	二、三四一圓
英吉利	一、六三九
佛蘭西	二〇
獨逸	一一、八二四
伊太利	四、七二九
瑞西	二、三四一圓
チエツコスロバキア	一、六三九
西班牙	二〇
北米合衆國	一一、八二四
計	一〇八、一五二

(口) 輸出額

二五五



洋樂器の内にありてもヴァイオリンの發達は特に著しく、大正四五年以來獨逸、伊太利の製品を歴して、大正九年の交には米、英、佛、濠の諸國へ年額百數十萬圓の輸出を見たりしが、其の後海外主産地の生産能力回復により現時に於ては昔日の感なきに至れり。其の他の樂器にありては特記すべき程度に至らず。

樂器同部分品及附屬品年別輸出額

年次	價額	年次	價額
昭和五年	四一、三三四圓	昭和七年	一八九、六七二圓
昭和六年	八一、九七五		

樂器同部分品國別輸出額 (昭和六年)

國名	價額	國名	價額
中華民國	四千圓	北米合衆國	六千圓
關東州	三二	加奈陀	一
香港	二	東部阿弗利加	一
英領印度	一四	布哇	二
海峽殖民地	四	計	八一
蘭領印度	八		

三、生産狀況

樂器の製造は東京を初め、神奈川、静岡、大阪、兵庫等を主産地とし、之が全國工場數は昭和六年末に於て二十有餘、従業者は一千八百餘人に及べり。斯業は概して、工場組織に依りて營まれ、而かも之等の業者は、ピアノ、オルガン製造者、絃樂器製造者、ハーモニカ製造者、其の他の樂器製造者等に大別せらるゝものなるが、ピアノ、オルガン製造者中の比較的大規模なるものはハーモニカの製造をも營めり。各製品共機械設備により製作せらるゝを常とするも、特に絃樂器の名作品にありては、各洗練せられたる技術を以て、手工業により製作せらるゝもの尠ならず。又ピアノアクション其の他の主要部分品を輸入し、ピアノの組立製作をなす小規模業者、或は高級オルガンに付てはオルガンリードを輸入に俟つもの等あり。ハーモニカの製造はピアノオルガンの製造工場に於て製造するものと、本品のみの専門的製造者とあり。

(イ) 生産額

ピアノ年別生産額

年次	數量	價額
昭和四年	三、四二八箇	二、二五四、八七三圓
昭和五年	三、一六五	一、八七八、八〇〇
昭和六年	三、九四三	二、〇七八、四〇六

オルガン年別生産額

年次	数量	金額
昭和四年	一四、一三七箇	一、〇四八、九三九圓
昭和五年	一四、八四八	一、〇一六、二一〇
昭和六年	一五、八六六	一、一九九、六四九

二五八

バイオリン、マンドリン、ギター等の絃楽器年別生産額

年次	数量	金額
昭和四年	一六六、一二三圓	七、七、四六四圓
昭和五年	一一九、一八八	

その他の楽器年別生産額

年次	数量	金額
昭和四年	一、五五四、〇八三圓	九一〇、六九四
昭和五年	一、一四七、四七二	

ピアノ府縣別生産額 (昭和六年)

府縣名	数量	金額
千葉	六〇箇	一九、二〇〇圓
東京	二八七	一〇九、五五〇

オルガン府縣別生産額 (昭和六年)

府縣名	数量	金額
神奈川県	四六九	一三〇、八四六
静岡県	三、〇四七	一、七八三、五〇〇
愛知県	一三	五、〇七〇
兵庫	七二	三〇、二四〇
計	三、九四八	二、〇七八、四〇六

バイオリン、マンドリン、ギター等の絃楽器府縣別生産額 (昭和六年)

府縣名	数量	金額
東京都	三六箇	四六五圓
神奈川県	七五八	三八、六二九
静岡県	一四、二六二	一、一三二、二〇五
愛知県	八一〇	二八、三五〇
計	一五、八六六	一、一九九、六四九

その他の楽器生産額

府縣名	金額
愛知県	七七、四六四圓
計	七七、四六四

二五九

府縣名	價額	府縣名	價額
東京	三六七、一〇八圓	大阪	三七、三一〇
静岡	四六〇、九〇〇	廣島	三〇、六〇〇
愛知	一四、七七六	計	九一〇、六九四

二六〇

(ロ) 主要生産者名及所在地名

ピアノ、オルガン、 ハーモニカ	日本楽器製造會社	濱松市中澤町
ピアノ、オルガン	河合楽器製作所	濱松市寺澤町
各種樂器	水野楽器製作所	名古屋市東區千種町
ピアノノ	日本ピアノ製作所	兵庫縣西宮市和上町
同	戎ピアノ製作所	尼ヶ崎市東初島町
同	松本ピアノ工場	東京市京橋區月島
同	ピアノ兄弟製造所	横濱市中區堀内町
絃樂器	鈴木ヴァイオリン製造株式會社	名古屋市東區松山町
管樂器	日本管樂器製造所	東京市淺草區北松山町
ハーモニカ	トンボハーモニカ製作所	東京市荒川區日暮里町八ノ 八五三

四、内外品競争狀況

(イ) 競争外國品及製造者名又は取扱者名

國名	製造者又は取扱者名	主なる製品の種類
獨逸	A. K. Huttler	各種樂器
	Flugel Plaininos	ピアノ
	E. D. Seiler	同
奧太利	L. Bossendorfer	同
英吉利	Bluthner & Co.	同
伊太利	Raffaele Calace & Co.	ヴァイオリン、マンドリン
	Comm Paolo Soprani & Fili	手風琴、ピアノ
佛蘭西	Laube	クラリネット、バス
北美合衆國	Dobro Corporation Ltd.	ギター
	Coast Wholesale Music Co.	ウクレレ

ハーモニカ 管樂器 社

東京市荒川區日暮里町八ノ  
八五三

(ロ) 品質の比較

ヴァイオリン、マンドリン及其の他の絃樂器の良否は、手工技術による頗る微妙なる點に存するものにして、本邦著名なる製作者の製品は伊太利、獨逸等の古き歴史を有する諸國の製品に匹敵すと稱せらる。尙ほ材料の選擇竝に乾燥等何等輸入品に比し遜色なし。ピアノは寒暑乾濕に敏感なる木材が大部を占むるが故に、之が乾燥若くは選木に留意し、ピン板の精選膠着、アクション構造上の均一正確等何等輸入品に遜色なく、殊に本邦古來の漆法による塗装は、優美の點に於て海外に冠たり。其の他種々の樂器に付きて見るに、之等の多くが概して手先を必要するが故に、手工技術に長じたる本邦製造者により生産せらるゝ製品は、何れも輸入品に遜色なし。

(ハ) 價格の比較

本邦樂器は各種類に付輸入品に比し二割乃至三割方廉價なるも、今主なるものに付内外品を比較すれば次の如し。

品名	内地製品	外國製品
ピアノ(特殊品を除く)	四五〇乃至三、五〇〇 <sup>円</sup>	一、〇〇〇乃至五、〇〇〇 <sup>円</sup>
ヴァイオリン(同)	三乃至五〇	四乃至八〇
マンドリン	七乃至六〇	八乃至八〇

コルネット	二三	三〇乃至四五
トロンベツト	二七	三〇乃至四五
トロンボン	三二	五〇乃至六〇
アルト	五五	五〇乃至六五
バリトン	四〇	六〇乃至七五
小バス	八〇	一〇〇乃至一三〇
コントラバス	一八〇	一八〇乃至二三〇
フレンチホルン	一三〇	一二〇乃至一七〇
クラリネット	三〇	三五乃至五〇

(ニ) 競争上不利とする點

音樂の大家が概して外國人にして、之等の者の樂器使用に對する支配力大なること。  
高級諸材料の内地に生産せられざること。

(ホ) 競争上有利とする點

諸外國に比し手工技術優秀なること。  
ピアノの如きにありては、漆塗裝技術により寒暑乾濕の影響を受けざらしむること。

### 二二八、電壓計電流計及電壓電流計

#### 一、概 説

電壓計は電路に並列結線して電壓の大きさを、電流計は直列結線して電流の大きさを測定する電氣計器にして何れも、交直兩種あり。用途上より實驗所用、携帯用、配電盤用、確度上より特別精密級、精密級、普通級及普通級小型、機構上より永久磁石可動線輕型(直流用)、可動鐵片型(交流用)、電流力計型(交流及交直兩用)、熱線型(高周波及振動電流用)等に分たる。

其の形狀は普通丸型、扇型、角型(エツヂワイズ型)にして、表面に目盛板あり、指針に因り指示す。如しは指示計器にして、此の他積算及自記電壓計、積算及自記電流計等あり。電壓電流計はブラツグ其の他の方法により結線を更へ、電壓計電流計に兩用し得るものなり。總て計器は使用に當つて標準容量を越ゆる時は分流器、變流器、倍率器、變壓器を結線す。主要原材料、マグネット、スプリング、鑄鋼、鐵銅眞鍮材、絶緣材料、抵抗線、アルミニウム、寶石類、塗料等概ね内國品なれども、アルミニウム、白金、寶石の一部は外國品を使用す。

本邦に於ける指示計器の製作は明治四十一年、電氣機械器具製作者が使用計器の修理の傍らウエス

トン型電氣計器を模倣製作せしに始まり、歐洲大戰を契機として急速なる發達をなせるものなり。

#### 二、輸出入狀況

##### (イ) 輸 入 額

年 次	數 量	價 額
昭和五年	一〇、一六六疋	二一五、九三一圓
昭和六年	六、〇二三	一一一、五〇三
昭和七年	三、一一九	一〇一、四五二

##### 國別輸入額 (昭和六年)

國 名	數 量	價 額
英 吉 利	〇・二疋	七千圓
獨 逸	三・一	四〇
瑞 西	〇	〇
北米合衆國	二・五	六一

##### (ロ) 輸 出 額 不詳

#### 三、生産狀況

##### (イ) 生産額 電氣計器參照

(ロ) 主要生産者名及所在地名 (指示計器)

株式会社横河電機製作所	東京市澁谷區田每町九
株式会社東京計器製作所	東京市蒲田區新宿町八六〇
品川製作所	東京市品川區北品川五ノ四二一
株式会社芝浦製作所	東京市麴町區有樂町一丁目一〇
株式会社日立製作所	東京市麴町區丸ノ内二丁目一
安立電氣株式會社	東京市麻布區富士見町三九
桑野電機株式會社	東京市品川區五反田四四八
株式會社敷島電機製作所	東京市豊島區西巢鴨三丁目七七九
合資會社東洋計器製作所	東京市蒲田區新宿町八六〇
櫻井電機製作所	東京市下谷區御徒町三ノ三
小島屋電機製作所	京都市下京區西九條戒光寺町二
日新電機株式會社	京都市中京區車坂町一〇
竹本電機計器製作所	大阪市南區瓦屋町二番町三四

四、内外品競争狀況

(イ) 競争外國品の製造者名及國名

ゼネラル・エレクトリック會社(米國)、ウエストン・エレクトリック・インスツルメント會社(米國)、ジユウエル・エレクトリック・インスツルメント會社(米國)、リーズ・エンド・ノースラップ會社(米國)、プリストル會社(米國)、ハルトマン・ウント・ブラウン會社(獨逸)、シーメンズ・ウント・ハルスケ會社(獨逸)、ブリツテイシユ・トムソン會社(英國)、エヴァーシエツド・アクト・ン・レーム・ウオークス(英國)、ケンブリツヂ・エンド・ポール・インスツルメント會社(英國)、ブラウン・ポベリー・エンド・ソンス(瑞西)

(ロ) 品質の比較

計器の構造、確度は日本電氣工藝委員會標準仕様書に則り、耐久磁石の不変、制動作用の研究、振動周期の小、デッドビート防磁等、製作者は各般に留意し、殊に本邦の温度、湿度に對する外函の密閉に意を注ぎ居れば誤差少く、本邦製品は外國品に比し何等遜色なきに至れり。

(ハ) 價格の比較

(1) 携帯精密度

直流計器類	昭和六年十一月	六五・〇〇—七五・〇〇	二五〇・〇〇—三〇〇・〇〇
	昭和七年十一月	六五・〇〇—七五・〇〇	四〇〇・〇〇—四五〇・〇〇
交流計器類	昭和六年十一月	四〇・〇〇—四五・〇〇	八〇・〇〇—一〇〇・〇〇
	昭和七年十一月	四〇・〇〇—四五・〇〇	一二〇・〇〇—一五〇・〇〇
高周波用計器	昭和六年十一月	一六〇・〇〇—一八〇・〇〇	四〇〇・〇〇—四五〇・〇〇
	昭和七年十一月	一六〇・〇〇—一八〇・〇〇	六〇〇・〇〇—七〇〇・〇〇

(2) 配電盤用普通級

直流計器類	昭和六年十一月	三五・〇〇—四五・〇〇	七〇・〇〇—九〇・〇〇
	昭和七年十一月	三五・〇〇—四五・〇〇	九五・〇〇—一二〇・〇〇
交流計器類	昭和六年十一月	一五・〇〇—二五・〇〇	五〇・〇〇—七五・〇〇
	昭和七年十一月	一五・〇〇—二五・〇〇	七五・〇〇—一〇〇・〇〇
高周波用計器類	昭和六年十一月	九〇・〇〇—一二〇・〇〇	二五〇・〇〇—三〇〇・〇〇
	昭和七年十一月	九〇・〇〇—一二〇・〇〇	四〇〇・〇〇—四五〇・〇〇

(二) 競争上不利及有利とする點

本邦製品は我が國土に適したる製品にして、品質は外國品に比し何等遜色なきに至りしにも拘らず、外國品偏重の弊未だ改まざるの感あり。然れども近時漸く此の弊の匡正せられんとし、加ふるに價格の低廉と現時の爲替關係とは、本邦品の進出に有利に展開されんとす。

二九、指示電力計及積算電力計

一、概 説

指示電力計は固定線輪及可動線輪ありて、電流及電壓に比例する電流を兩線輪に夫々通し、その間の相互廻轉力により電力を指示するものにして、主として交流回路に用ひられ、單相電力計、多相電力計とあり。用途、確度、形状による種類は、前記電氣計器（電壓計等）に同じ。此の他自記電力計あり指針により數値を記録するものなり。

積算電力計は負荷電力を積算計量するものにして、直流、單相交流及多相交流用等あり。機構上より分類すれば、水銀電動機型、整流子電動機型、誘導型交流積算電力計の三種あり。電動子の廻轉速度は負荷電力に比例するものなり。

電力計の用途は實驗或は送電、配電等電力の授受の際使用す。

本邦に於ける積算計器の製造は大正五年前後に始まり、爾後電氣事業の勃興普及に伴ふ需要の旺盛と共に盛となれるものなり。然れども未だ外國品の輸入熄まず、本邦製品は昭和六年に於て新檢定個數の三割五分を占むるに過ぎず。主要原材料は概ね内國製品なるも、アルミニウム、寶石類の一部

に外國製品を使用するものあり。

### 二、輸出入狀況

#### (イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和五年	九八、〇九九	三六七、五三一圓
昭和六年	一二六、四一九	四〇一、〇四七
昭和七年	四三、七四九	二二一、〇一〇

#### 國別輸入額 (昭和六年)

國名	數量	價額
關東州	〇・一聽	〇千圓
英吉利	〇	〇
獨逸	四五・七	一七九
瑞西	七八・六	一九三
北米合衆國	一・八	二六

#### (ロ) 輸出額 不詳

### 三、生産狀況

#### (イ) 生産額 (電氣計器)

年次	數量	價額
昭和四年	一八四、一八一箇	二、〇八七、〇七七圓
昭和五年	二〇九、二八七	二、七一二、七七七
昭和六年	二一三、〇一一	五九、四〇〇

#### 府縣別生産額 (昭和六年)

府縣名	數量	價額
茨城	五、三三五個	八二、五六一圓
東京	三四、八一四	六八、六九五
神奈川	九八、四六五	一、五六七、七七三
愛知	二九二	五五六、一三三
京都	一四、七五八	一八、五三〇
大阪	五九、三四七	九一、八三六

#### (ロ) 主要生産者名及所在地名 (積算計器)



- 株式會社橫河電機製作所 東京市澁谷區田每町九
- 株式會社芦田工業所 大阪市西淀川區大仁西一丁目四四
- 日本電氣株式會社 東京市芝區三田四國町二
- 株式會社芝浦製作所 東京市麴町區有樂町一ノ一〇
- 東京電氣株式會社 神奈川縣川崎市堀川町
- 三菱電機株式會社 東京市麴町區丸ノ内二ノ四
- 株式會社津田電氣計器工業所 大阪市東淀川區中津本通一ノ五六

四、内外品競争狀況

(イ) 競争外國品の製造者名及國名(積算計器)

メトロポリタン・ヴキツカース・エレクトリック會社(英國)、ブリッテイシユ、トムソン會社(英國)、サンガモ・エレクトリック會社(米國)、ゼネラル・エレクトリック會社(米國)、シーメン  
 ス・ウント・ハルスケ會社(獨逸)、アルグマイネ・エレクトリック會社(獨逸)、カーチング會社  
 (獨逸)、ランデスギヤー會社(瑞西)、シャセラル會社(瑞西)

(ロ) 品質の比較(積算電力計)

計器の品質特長は各國情によりて異なるものにして、確度、耐久力、價格、電力損の僅少、計器の調整等種々必要條件あり。價格と電力損に拘泥して調整壽命を省みぬものあり。或は徒に重量を輕量にせる對輸出品あり。思ふに本邦製品は檢定制度に則り日本電氣工藝委員會電氣計器標準仕様書に基き製作され、幾多研鑽の結果我が國情に適し、且外國品に對し何等遜色なきに至れり。

(ハ) 價格の比較(積算電力計)

昭和六年十一月現在に於ては大體同價格なりしが、昭和七年十一月現在價格は次の如し。

品名	内國品	外國品
交流三相三線式	四五・〇〇 <sup>円</sup>	五〇・〇〇 <sup>円</sup>
相流用	九五・〇〇	一一〇・〇〇
單相用	六・五〇	九・〇〇

(ニ) 競争上不利及有利とする點

本品製作の主要一部材料を不巳得外國に仰ぐことは、對外國品競争上甚だ不利とする所にして、内地勞銀の低廉なるを唯一の有利點となす。殊に外國製品が技術的先進國なりし關係上、多量生産を以て常に其の一部製品を本邦に販賣し來りし過去の實情は、日本に於ける本品製作工業の確立と發達とを阻害せし所甚大なり。然れども本品は電力供給に使用し、本邦の如き檢定後五箇年

間は封印をなし何等調整を行はずして計量する國に於ては、本制度邦に適したる製作必要條件  
るべく、幾多研鑽の結果漸次優良なる國産品を製作し得るに至り、殊に近時の爲替關係に於ては  
國産品進出の好機となれり。

### 三〇、海底電信、電話ケーブル

#### 一、概説

海底電信、電話ケーブルは海底に敷設する通信線にして、一般的構造は導體(銅線)、絶縁體(ガツ  
タバーチヤ、バラガッタ)、保護装置(眞鍮又は銅の纏帶、ジュート及鐵線)より成り、無裝荷ケーブル  
と裝荷ケーブルとあり。ケーブルは鎧裝程度により特殊淺海線、淺海線、中間線、深海線に分れ、用  
途により電話用、電信用、電信電話用等あり。GP海底ケーブルの外、ゴム絶縁、紙絶縁海底ケーブ  
ルあれど、何れも特殊のものなり。

本邦各島嶼間を連絡する海底通信線は、極めて少許の國産鉛被紙ケーブルを除き、延長一萬哩に及  
ぶものは總て外國品なり。本邦に於けるG・P海底線の製造は大正十二年頃より僅に行はれしも、其の  
後頓挫し、需要の限られたると原材料を外國に仰ぐ關係上、經濟的に確立せられざりしが、近時漸く  
本邦に於て之が製造を見るに至れり。原材料はガターバーチャ(馬來半島蘭領東印度)、バラタ(南

米)、鉛(ビルマ、米國、加奈陀)、ガム(馬來半島、セイロン)の外は凡て内地品なり。

#### 二、輸出入狀況

##### (イ) 輸入額

##### 海底電信ケーブル

年次	數量	價額
昭和五年	四一・九吨	一二一、六五〇圓
昭和六年	六七・〇	一九三、七四四
昭和七年	二一・九	七九、七一四

##### 海底電話ケーブル

年次	數量	價額
昭和五年	三二・三吨	一三八、八二九圓
昭和六年	—	—
昭和七年	—	—

##### 國別輸入額 (昭和六年)

全額獨逸より輸入す

##### (ロ) 輸出額 なし

三、生産状況

(イ) 生産額

昭和七年より事業確立せられしものにして、国内全需要を充す。

(ロ) 主要生産者名及所在地名

株式会社住友電線製造所 大阪市此花區恩貴島南之町六〇  
 古河電気工業株式会社 東京市日本橋區室町

四、内外品競争状況

(イ) 競争外國品の製造者名及國名

テレグラフ・コンストラクション・エンド・メンテナンス會社(英國)、ヘリツプ・テレグラフ會社(英國)、ブリテイッシュ・インシユレート會社(英國)、インデアラバー・ガターバーチャ・テレグラフ會社(英國)、フェルテン・ウント・ギョーム會社(獨逸)、シーメンズ・シユツケルト會社(獨逸)

(ロ) 品質の比較

外國品に比し何等遜色なし。

(ハ) 價格の比較

本品の價格は主要材料を輸入に仰ぐことと、工場操業程度によりて變動するものにして比較し難く、且つ昭和七年後半に於ては輸入品なきため比較し得ざるも、内地品低廉の如し。次に昭和六年に於ける價格を比較す(一心入一湮當)

品名	獨逸品	國産品
淺海線	二、三二〇圓	二、五〇〇圓
中海線	一、三二〇	一、四〇〇
深海線	一、〇八〇	一、二〇〇

(ニ) 競争上不利及有利とする點

從來本邦需要は總て外國品に仰ぎ、且最近昭和五年頃よりの獨逸品の低廉なる供給は、本邦製造者に一大脅威を感ぜしめたり。本邦品は品質に於て何等外國品に對し遜色なきも、價格の點に於て多大の不利にありしは本品の材料を輸入又は輸入に等しきものを使用し、且夫等に對しては輸入税を課することと国内需要額が本邦製造者の經濟的操業に必要な額に及ばざることと、外國製品に對しては關税を課せざりしこととに因る。然れども近時國産振興の主旨と爲替關係により有利に展開しつつあり。

### 三二、蓄電池及同部分品

#### 一、概 説

蓄電池は陰陽兩電極と電解液とありて、可逆的化學變化により電氣勢力を貯藏し或は放電するものにして、現在工業的價値あるものは鉛蓄電池及アルカリ蓄電池の二種なり。鉛蓄電池は陽極に過酸化鉛、陰極に鉛、電解液に稀硫酸を用ふるものにして、電極板の表面作用を大にする方式により大體プラー式(チユードル型、クロライド型、グールド型)と、フオール式(普通ベースト型及エポナイトクラッド型)に分たれ、プランテー式の極板は、鉛の鑄物の表面を電氣化學的操作により侵蝕して凸凹を作りしもの、オール式の極板は、鉛アンチモニー合金の格子に鉛又は過酸化鉛の粒末を充填したるものにして、エポナイトクラッド型はエポナイトチユープにより陽極の保護作用を施せるものなり。前者は耐久力に富むも後者に比し過重なる爲め、据置用に適し、後者は移動用に適す。アルカリ蓄電池はアルカリを電解液とするものにして、エヂソン電池及ユングネル電池あり。近時更にドラム蓄電池の出現を見たり。アルカリ蓄電池は輕量且堅牢にして移動用に適すれども、本邦に於ける製造なし。本邦に於ける鉛蓄電池の製造は、日本電池會社に於て明治二十八年理化學實驗用として製造研究に着手せしに始まり、爾來通信用或は國防的必要に迫られ、品質、技術共に顯著に進展をなして、今日

に至れり。然れども之が主要原料たる鉛(加奈陀、北米合衆國、濠洲)、ゴム(南洋)、木材(内地及米國)、錫(英國、支那)は輸入の止むなき状態なり。蓄電池の用途は點燈用、動力用、通信用として需要汎く、自動車、列車、通信機、航空機、潜水艇、水型電動機等に使用せられ、近時電氣自動車及電力負荷調整等にも使用せらるゝに至れり。

#### 二、輸出入狀況

##### (イ) 輸入 額

年 次	數 量	價 額
昭和五年	九、四六一個	一四八、四三四圓
昭和六年	一一、二二一	一〇七、八二三
昭和七年	八、六六六	八〇、三八〇

##### エレクトロード

年 次	數 量	價 額
昭和五年	一一、七五〇疋	四四、一九一圓
昭和六年	一三、二三六	四八、二三〇
昭和七年	七、二四八	八四、〇六七

國別輸入額 (電池及同部分) (昭和六年)

國名	數量	價額
英國		二五千圓
獨逸		二一七
瑞典		七
北米合衆國		一一一
其他		二八〇

(ロ) 輸出額 不詳

三、生産狀況

(イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和四年	七九三、四五六	三、七四五、九四四圓
昭和五年	二〇六、七五三	二、七三四、四四五
昭和六年	二〇六、二七八	二、一三五、九二七
		二、〇〇八、四七六
		一、六二七、六一二
		一、七一〇、二八九

府縣別生産額 (昭和六年)

府縣名	數量	價額
東京	一五、四〇〇	七二、九二四圓
神奈川		三〇〇、六〇〇
京都		一、六三七、三六五
大阪	一七四、八四五	一、一一七、一〇〇
兵庫	一六、〇三三	二〇九、九一二

(ロ) 主要生産者名及所在地名

日本電池株式會社	京都市上京區新町通今出川上ル
湯淺蓄電池製造株式會社	大阪府三島郡高槻町
株式會社神戸電機製作所	兵庫縣神戸市湊東區相生町二丁目六〇
古河電氣工業株式會社	東京市日本橋區室町二丁目八
日本蓄電池株式會社	東京市大森區入新井四丁目八〇二

四、内外品競争狀況

(イ) 競争外國品の製造者名及國名

チウドル電池會社(獨逸)、クロライド電池會社(英國)、ストーン會社(英國)、エレクトリック・

ストレーヂ・バッテリー會社(米國)、フォード自動車會社(米國)、ゼネラルモーターズ會社(米國)、ウイラード・ストレーヂ・バッテリー會社(米國)、ユウ・エス・エル・バッテリー會社(米國)

(ロ) 品質の比較

容量及耐久力に於て、外國品に比し寧ろ優良なり。

(ハ) 價格の比較

型式、容量に於て異なるも、一例を示せば次の如し。

年次	内國品	外國品
昭和六年十一月	一三・〇〇 <sup>円</sup>	一五・六〇 <sup>円</sup>
昭和七年十一月	一三・五〇	二〇・〇〇

(ニ) 競争上不利及有利とする點

品質の點に於ては本邦品寧ろ優良なり。本品輸入額は逐年減少し、近時は爲替關係上輸出するに至れり。唯僅かに輸入あるは自動車附屬品、鑛山用電池なり。

自動車用電池の價格の點に於ては、米國品は大量生産をなすが故に本邦品に比し低廉になりしが、金再禁止後は低爲替の關係により、本邦品の地歩は却つて有利に轉換せられつゝあり。

三二、電信機、電話機及同部分品

一、概説

電信機には有線と無線とありて、何れも送信装置と受信装置より成り、前者は導線、後者は電磁波を其の傳媒とす。受信器には音響受信器と印刷受信器との二種あり。

電話には有線と無線とあり、通話方法は電信と同様にして、送話装置及受話装置あり。送話器は電氣抵抗及靜電容量の變化を以てなすものなれども主に前者にてデルヴイル及ソリッドバックの二種あり。

有線電話は磁石式より共電式に進歩し、次にダイヤルを有する自動式に發達し、自動交換機的方式にはストロージャー式、シーメンズ式、ウエスターン式、リレー式等種々あれども、本邦に於て現今使用せられつゝあるものは前二者にして、近時本邦に於ても製造者二、三を數ふるに至れり。此の他近最發達せしものに高周波利用の搬送式電信電話、寫真電送等あり。

本邦に於ける通信機の製作は、有線電信機に於ては明治五年、有線電話機に於ては明治十四年前後、無線通信機は明治三十五年前後より勃興し、爾來通信事業或は軍事的必要に迫られ發達したるものな

原材料は白金、磁鐵の一部を除き、總て國産品を使用す。

二、輸出入狀況

(イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和五年	1	一、八三三、八三六圓
昭和六年	1	一、二二四、四七八
昭和七年	1	一、六六六、三八七

國別輸入額 (昭和六年)

國名	數量	價額
英吉利	1	三五八千圓
獨逸	1	三二八
白耳義	1	一三
和蘭	1	五〇
丁抹	1	四六一
北米合衆國	1	四

(ロ) 輸出額

年次	數量	價額
昭和五年	1	六〇一、四三四圓
昭和六年	1	五二一、一五一
昭和七年	1	六四二、四二九

國別輸出額

國名	數量	價額
中華民國	1	六九千圓
關東州	1	四一〇
香港	1	五
露領亞細亞	1	二二
蘭領印度	1	三
暹羅	1	三
北米合衆國	1	一
英領印度	1	一

三、生産狀況

(イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和四年	1	一三、八二五、七二三圓
		二八五

昭和五年  
昭和六年

二八六

府縣別生産額 (昭和六年)

府縣名	數量	價額
東京	1	一五、四六六、三六九
神奈川	1	一五、八三九、三七六
大阪	1	一二、五五一、二三八圓
	1	二、七五七、〇三一
	1	五三一、一〇七

(口) 主要生産者名及所在地名

日本電氣株式會社	東京市芝區三田四國町二
沖電氣株式會社	東京市芝區田町四ノ二
富士電機製造株式會社	神奈川縣川崎市田邊新田一
安立電氣株式會社	東京市麻布區富士見町三九
東亞電機株式會社	東京市澁谷區澁谷新町一九
明昭電機株式會社	東京市芝區西應寺町五三
東京電氣株式會社	神奈川縣川崎市堀川町七二

日本無線電信電話株式會社	東京市品川區東大崎二丁目二九一
東京無線電機株式會社	東京市蒲田區新宿町一四五
東洋無線電信電話株式會社	東京市芝區西應寺町

ラヂオ受信機

日本無線電信電話株式會社	東京市品川區東大崎二丁目二九一
三共電機工業株式會社	東京市品川區大井林町二五五
七歐無線電氣商會	東京市麻布區東町三四
合名會社湯川電機製作所	東京市本鄉區駒込林町一七四
田邊商店	東京市神田區小川町一一
山中無線電機製作所	東京市大森區大森三丁目四二一
株式會社坂本製作所	東京市麴町區飯田町
富久商會	東京市神田區小川町一丁目五
ラヂオ電氣商會	東京市本鄉區本郷六ノ五
松下電器製作所	大阪市此花區大開町二丁目二五



大阪市西區靱中通一丁目五

早川金屬工業研究所

#### 四、内外品競争狀況

##### (イ) 競争外國品の製造者名及國名

ウエスタン・エレクトリック社(米國)、オートマチック・エレクトリック社(米國)、シーメンス・ブラザース社(英國)、オートマチック・テレフォン・マヌファクチュアリング社(英國)、エリオット・ブラザース社(英國)、シーメンス・ウント・ハルスケ社(獨逸)

##### (ロ) 品質の比較

本邦製品は電磁氣學、音響學の發達と、磁性體の研究等各部門に於ける技術的研鑽と相待つて、外國品に比し優劣なきに至れり。

### 三三、發電機

#### 一、概説

發電機は電磁誘導の原理により機械的勢力を電氣的勢力に變換するものにして、電流により直流發電機と交流發電機とに分つ。直流機は主として船舶、電氣鐵道、電氣鎔接、無線通信等特殊工業方面

に使用せられ、電動發電多く、交流機は一般電氣力發電に使用せられ、之が原動機の種類により水車發電、タービン發電、ディーゼル發電に分たる。

尙は發電機の容量、電壓並に電流の大きさ、使用箇所、原動機の性質により、夫々適應せる型式及設計を異にす。本邦に於ける發電機の製作は、明治十七年三吉電機工場に於ける小發電機の試作に始まるものと謂ふべし。當初電氣事業は單相交流發電機を用ひたるも、現今は三相交流發電機にして、電機事業の發達に伴ひ、近時五萬KW容量發電機をも製作するに至れり。直流發電機は交流機より遅れ、明治二十五、六年頃足尾銅山製作所に於て自家用(五〇〇V)發電機を製作したるに創まりしものなり。原材料は概ね内國品にして、一部電氣鐵板マイカ、カーボンブラッシュ、ベアリングボール等に英國、米國、獨乙品を併用す。

#### 二、輸出入狀況

##### (イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和五年	一、〇〇三、六二〇瓩	二、〇七三、三六五圓
昭和六年	三五〇、四七三	六五三、五三五
昭和七年	八五、四四八	五六一、五八四

國別輸入額 (發電機電動機類) (昭和六年)

國名	數量	價額
關東州	〇・九艘	二千圓
中華民國	〇・七	〇
英吉利	三四六・九	五九三
佛蘭西	五一・五	一二〇
獨逸	一七〇・七	五二二
伊太利	〇・二	一
瑞典	二一・八	六一
瑞典	一三・一	一四
チエツコスロバキヤ	一・一	一
丁抹	七・二	七
北米合衆國	三二八・四	六六五
昭和五年	二、八八五、〇八八	三、〇〇三、四四〇圓
昭和六年	二、九〇一、九七四	二、六八六、一九二

(口) 輸出額 (電氣機械部分品及附屬品を含む)

國名	數量	價額
中華民國	九一二・五艘	六五八千圓
關東州	一、四四三・〇	一、七八七
香港	九・〇	一〇
英領印度	二・五	三
海峽殖民地	三・八	一二
蘭領印度	四・四	七
露領亞細亞	三三三・三	一九〇
墨西哥	一・七	二
伯刺西爾	〇・二	〇
布哇	〇・二	〇
昭和七年	一、四一二、〇三九	一、四一四、七四五

國別輸出額 (電氣機械部分品及附屬品を含む) (昭和六年)

三、生産狀況 (イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和四年	一三、九四九 一個	七、九〇六、六七五
		二九一

昭和五年 一〇、九一四  
 昭和六年 三、九四七

府縣別生産額 (昭和六年)

府縣名	數量	價額
茨城	一四八	三四九、二九二
東京	二、六八五	九二九、〇五三
神奈川	五三八	一、二二八、一六〇
愛知	二二	四、一六五
三重	四九	一四、〇九〇
大阪	一六二	三五、五九〇
兵庫	二九一	六七二、一六三
福岡	三八	二一、〇二三
長崎	一四	一、五九九、三三三

二九二

(ロ) 主要生産者名及所在地名

株式会社日立製作所 東京市麴町區丸ノ内二ノ一二  
 株式会社芝浦製作所 東京市麴町區有樂町一ノ一〇

三菱電機株式会社 東京市麴町區丸ノ内二ノ四  
 富士電機製造株式会社 神奈川縣川崎市田邊新田一  
 株式会社川崎造船所 兵庫縣神戸市東區東川崎町二丁目  
 株式会社明電舎 東京市品川區東大崎二丁目二七六  
 株式会社小穴製作所 東京市淺草區清川町三ノ一二  
 株式会社精電舎 東京市麴町區丸ノ内三丁目四  
 株式会社安川電機製作所 福岡縣八幡市藤田  
 株式会社神戸製鋼所鳥羽電機工場 兵庫縣神戸市葺合區脇濱一丁目  
 小田電氣株式会社 東京市京橋區月島東仲通一一丁目

四、内外品競争狀況

(イ) 競争外國品の製造者名及國名

ゼネラル・エレクトロニクス會社(米國)、ウエチングハウス會社(米國)、アルグマイネ社(獨逸)、シ  
 ーメンスシュツケルト社(獨逸)、ブリッテイシユ・トムソン・ハウストン社(英國)、イングリツシ  
 ュ・エレクトロニクス社(英國)、メトロポリタン・ウキツカース社(英國)、ブラウン・ポベリー社(瑞

(ロ) 西

(ロ) 品質の比較

電氣的並に機械的研鑽と工作技術の練磨とにより、外國品に比し優劣なし。

(ハ) 價格の比較

製造者、容量、型式により區々にして明記し得ざるも、昭和六年十一月現在と昭和七年十一月現在價格とを比較するに、材料の値上りの爲め内國製品價格は三割内外の昂騰となれり。今外國品價格と内國品價格の比較を百分率にて示せば次の如し。

	内國品	外國品
昭和六年十一月現在	一〇〇	一五〇
昭和七年十一月現在	一〇〇	二五〇

(ニ) 品質上不利及有利とする點

外國製造者は多量生産により在庫品多く、急需に應じ、且外國品偏重の弊未だ改まらざる所ありて、外國品の輸入尙ほ止まざるも、本邦製品は漸く品質の向上と共に、國情に適したる製品を以て外國品に對抗し來り、且豫備品の取扱至便、爲替安等の有利點と相俟つて國內需要を充さんとする狀勢にあり。

### 三四、電動機

一、概説

電動機は電氣的勢力を機械的勢力に變換するものにして、直流機と交流機に分つ。直流機は船舶、電氣鐵道、運搬機、壓延機等特殊用途に使用せられ、工場及一般動力用としては交流機にして、就中誘導電動機多し。此の他交流機には周期電動機、整流子電動機等あり。夫々特長ありて使用目的を異にす。尙ほ電動機には勵磁法、捲線法、型等に種々の區別あり。

本邦に於ける電動機は明治二十五、六年頃直流電動機製作せられ、後明治三十一年交流電動機の製作せられしを嚆矢とし、今や特殊電動機を除きては漸く外國品の輸入を見ざる迄に發達したり。原材料は電氣鐵板、カーボンブラッシュ、マイカ、ベアリングボールの一部を除きては、總て國産品なり。

二、輸出入狀況

(イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和五年	四二二、八一疋	八五八、四七〇圓
		二九五

昭和六年  
昭和七年

三一、五四三  
六五、一二〇

五八五、五六四  
二五三、二二六

二九六

國別輸入額

發電機の項参照。

(口) 輸出額

發電機の項参照。

三、生産状況

(イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和四年	七七、〇三九	一六、〇〇四、六六五
昭和五年	一一五、四二〇	一四、七五七、六四一
昭和六年	八七、六四八	一〇、二九二、一一六

府縣別生産額 (昭和六年)

府縣名	數量	價額
茨城	二、四三七個	一、〇五一、六五二圓
東京	三四、〇二六	二五、八一二
神奈川	一三、二六七	二、五八四、二一三
愛知	一一、八四九	三、〇六一、八八三
三重	八、五三五	七二一、六九一
大阪	一一、二三〇	四三四、九一九
兵庫	一、二〇四	八、五六八
福岡	四、一七四	一三一、〇五八
長崎	九二六	一、一三〇、一八二

(ロ) 主要生産者名及所在地名

株式会社日立製作所	東京市麴町區丸ノ内二ノ一二
株式会社芝浦製作所	東京市麴町區有樂町一ノ一〇
三菱電機株式会社	東京市麴町區丸ノ内二ノ四
富士電機製造株式会社	神奈川縣川崎市田邊新田

二九七

株式會社安川電機製作所  
 株式會社明電舎  
 東洋電機製造株式會社  
 株式會社川崎造船所  
 株式會社神戸製鋼所鳥羽電機工場  
 株式會社小穴製作所  
 三井鑛山株式會社(三池製作所)  
 小田電氣株式會社

福岡縣八幡市藤田  
 東京市品川區東大崎二丁目  
 東京市麴町區丸ノ内三丁目四  
 兵庫縣神戸市東區東川崎町  
 兵庫縣神戸市葺合區脇濱一丁目  
 東京市淺草區清川町三ノ一二  
 東京市日本橋區室町二丁目  
 東京市京橋區月島東仲通

#### 四、内外品競争狀況

##### (イ) 競争外國品の製造者名及國名

ゼネラル・エレクトロリツク社(米國)、ウエスチングハウス社(米國)、ワグナー社(米國)、シーメ  
 ンス・シュツケルト社(獨逸)、アルゲマイネ社(獨逸)、ブリツテイシユ・トムソン・ハウストマ  
 ン社(英國)、デツカー社(英國)、ブラウン、ホペリー社(瑞西)、アルマナイス・ベンスカ社(瑞西)

##### (ロ) 品質の比較

電氣的並に機械的研鑽と工作技術の練磨により、外國品と對比して優劣なし。

##### (ハ) 價格の比較

發電機の項參照。

##### (ニ) 競争上不利及有利とする點

外國製造者は多量生産により在庫品多く、急需に應じ得、且外國品偏重の弊尙ほ改まざる所あり  
 て、外國品の輸入未だ止まざるも、本邦製品は漸く品質の向上と共に國情に適したる製品を以て  
 外國品を防遏し來り、且豫備品の取扱至便、現時の爲替安等に俟ち、國內需要を充さんとする狀  
 勢にあり。

### 三五、變壓器

#### 一、概説

變壓器は主として成層せる鐵心と之に鎖交する絶緣線の捲線より成り、相互誘導作用により電壓を  
 變更するものにして、電壓を降下せしめる遞降變壓器と、電壓を上昇せしむる遞昇變壓器とに分たる。  
 變壓器の型は鐵心と捲線との關係位置により、内鐵型と外鐵型とあり。尙ほ冷却方式により氣冷式變  
 壓器、送風式變壓器、油冷式變壓器、送油式變壓器、水冷式變壓器、送風油冷式變壓器等の種類あり。

變壓器は一般に單相變壓器にして、多相回路には單相變壓器を結線し使用すれども、他に三相變壓器あり、歐洲方面に於て使用多し。

本邦に於ける變壓器製造は、電氣事業の進展に伴ひ、明治二十五年前後に始まり、幾多研鑽の結果今や四、三七五〇KVA、五〇サイクル三相變壓器の超容量變壓器の製造をも成就するに至れり。變壓器の用途は送電、配電其他計器、測定、特別高壓實驗用等あり。尙ほ近時消弧變壓器の新需要多し。主要原料は概ね内地製品に俟つも、絶縁材料の一部マイカは、印度及加奈陀品を使用するものあり。變壓器用電氣鐵鈹は從來外國品なりしが、近時國內にて優秀品の製造を見るに至れり。

二、輸出入状況

(イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和五年	二四七、三三九疋	三五四、九六七圓
昭和六年	七八、〇一六	一六二、二八四
昭和七年	二四、八五一	一一一、〇〇五

國別輸入額 (昭和六年)

國名	數量	價額
關東州	〇・三疋	〇千圓

國名	數量	價額
英吉利	五・六	一一
佛蘭西	二・六	六
獨逸	一五・四	二八
瑞西	一一・〇	一一
和蘭	〇・二	一
瑞典	一・八	三
北米合衆國	四一・〇	九八

(ロ) 輸出額

發電機の項参照。

三、生産状況

(イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和四年	三二九、三八八個	一二、三三〇、七二八圓
昭和五年	三八七、三三三	九、三〇七、六五二
昭和六年	三四一、三一七	五、八七二、七二五

府縣別生産額 (昭和六年)

府縣名	數量	價額
茨城	五、〇〇七個	九一七、七一九圓
東京	二八五、四二三	一、四三三、六五八
神奈川	四、三七二	一、一四一、六六二
愛知	五一九	六三、九三二
京都	四、七九二	四〇、三四六
大阪	三九、二六七	一、五八四、二三四
兵庫	二四二	五六九、二四〇
福岡	一、六九五	九四、九三四

(ロ) 主要生産者名及所在地名

株式会社日立製作所	東京市麴町區丸ノ内二ノ一二
株式会社芝浦製作所	東京市麴町區有樂町一ノ一〇
富士電機製造株式会社	神奈川縣川崎市田邊新田
株式会社明電舎	東京市品川區東大崎二丁目
大阪變壓器株式会社	大阪市東淀川區今里町
西島變壓器株式会社	大阪市東淀川區今里町

四、内外品競争狀況

(イ) 競争外國品の製造者名及國名

ゼネラル・エレクトリック社(米國)、ウエスチング・ハウス社(米國)、シーメンス・シュツケルト社(獨逸)、アルゲマイネ社(獨逸)、メトロポリタン・ヴキツカリス社(英國)、イングリツシユ・エレクトリック社(英國)、ブラウン・ボベリ社(瑞西)

(ロ) 品質の比較

電磁と氣學の研鑽、工作技術の練磨により、外國品に比し優劣なし。

(ハ) 價格の比較

發電機の項參照。

(ニ) 競争上不利及有利とする點

外國製造者は多量生産により在庫品多く、急需に應じ得、且外國品偏重の弊未だ改まざるものあり、外國品の輸入尙ほ止まざるも、本邦製品は漸く品質の向上と共に國情に適したる製品を出すに至り、且豫備品の取扱便利及現時の爲替安に俟ち、國內需要を充さんとする傾向にあり。



### 三六、廻轉變流機、周波數變換機及廻轉變相機

#### 一、概 説

廻轉變流器は交流と直流に變換するものにして、電動機と直流發電機を一基に結合したるが如き装置なり。一時は電動發電機に代りて廣く直流電源として使用せられしが、軌近水銀整流器の進歩と共に漸次高壓のものは後者に移り、現在は主として低壓電源に使用せられ、主として電氣鐵道及化學工業に利用せらる。本邦に於ける之が製作は、明治三十三年石川島造船所に於ける3K.Wの容量もの始まり、爾後電鐵事業の發展と工業的大容量直流電源の必要とに因り、漸次發達したるものなり。

周波數變換機は周波數を變換するものにして、周波數の異なる送電系統に於て相互に電力の授受を行ひ、或は工業的交流電源として周波數變換の必要の際に使用せらる。廻轉變相機は交番電流の位相を調整するものにして、二送電系統を連絡するに使用せらる。

原材料はカーボンブラツシユ(米國及内地)、マイカ(印度及加奈陀)、ベアリングボール(米國及獨逸)の外は、凡て國産品なり。

#### 二、輸入狀況

(イ) 輸入額	
年次	數量
昭和五年	三四六、九〇七疋
昭和六年	二〇三、一八一
昭和七年	三〇、〇五二

#### 國別輸入額

發電機の項参照。

#### (ロ) 輸出額

發電機の項参照。

#### 三、生産狀況

#### (イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和四年	一個	三、九〇六圓
昭和五年	六、六一九	一、七六二、五三六
昭和六年	一四四	一、六八七、七三四
昭和七年	九三七	一、一〇一、〇一一

府縣別生産額 (昭和六年)

府縣名	數	量	價額
茨城	二〇個		四三七、五一圓
東京	八七六		九、七九四
神奈川	三五		六〇〇、五五七
兵庫	六		五三、一四九

(ロ) 主要生産者名及所在地名

- 株式会社日立製作所 東京市麴町區丸ノ内二ノ一二
- 株式會社芝浦製作所 東京市麴町區有樂町一ノ一〇
- 富士電機製造株式會社 神奈川縣川崎市田邊新田
- 三菱電機株式會社 東京市麴町區丸ノ内二ノ四
- 株式會社明電舎 東京市品川區東大崎二ノ二七六

四、内外品競争狀況

(イ) 競争外國品の製造者名及國名

ゼネラル・エレクトロニクス社(米國)、ウエスチングハウス社(米國)、シーメンズ・シュツケル社

(獨逸)、アルゲマイネ社(獨逸)、イングリツシユ・エレクトロニクス社(英國)、ブラウン・ボベリ社(瑞西)

(ロ) 品質の比較

電氣的並に機械的研鑽と、工作技術の練磨とにより、外國品に對比して優劣なし。

(ハ) 價格の比較

發電機の項参照。

(ニ) 競争上不利及有利とする點

外國製造者は多量生産により在庫品多く、急需に應じ得、且外國品偏重の弊風未だ抜けず、外國品の輸入を杜絶するに至らざるも、本邦製品は漸く品質の向上と共に、國情に適したる製品を以て外國品の輸入を減じ、且豫備品の取扱至便及現時の爲替安關係を利用して國內需要を充さんとする實狀にあり。

## 第四 化學工業製品

### 一、過酸化水素

#### 一、概 説

過酸化水素は醫療用として、消毒、防腐或は洗滌用に供せらるゝ外、工業用としては主として各種漂白に使用せらる。醫療用過酸化水素は、濃度3%の稀薄なるものにして、從來本邦に於ても輸入過酸化バリウムを原料として製造せられつゝありて、醫療用過酸化水素としての輸入なし。工業用品は二〇%乃至四〇%の濃度を有し、主として水の電氣分解に依りて、製造せらるゝものなるが、本邦に於ても最近事業化を見、近く輸入を防遏し得る見込なり。

#### 二、輸出入狀況

##### (イ) 輸 入 額

年 次	數 量	價 額
昭和四年	一九四、四七一疋	一七〇、六八九圓
昭和五年	二五七、九四三	二一三、七八八
		三〇九

昭和六年 三八一、四七九  
昭和七年 三二三、四七六

二九〇、三五三  
二九八、二二六

國別輸入額 (昭和六年)

國名	數量	價額
獨逸	九六、一〇四疋	七五、七九六圓
伊太利	一一、八三〇	八、八一四
瑞西	五二、三二四	四〇、九五二
埃地利	二二一、〇三五	一六四、六〇五
其他	一八五	一八六

(ロ) 輸出額 なし

三、生産狀況

(イ) 生産額

從來の日本藥局方適合品生産額は、昭和五年に於て五三二、八〇一疋に達したるが、前記の如く輸入對抗品に非ず、輸入品に對抗し得べき濃度高き過酸化水素は、本邦に於ては、最近製造開始を見たるのみにして、昭和七年に於て二〇、〇〇〇圓見當の生産ありたるのみなるも、製造者たる合資會社江戸川工業所は設備擴張中にして、其の計畫に依れば需要量を充足し、輸出も亦可能なるに至る見込なり。

(ロ) 主要生産者名及所在地名

合資會社江戸川工業所 東京市葛飾區新宿町五ノ二、九〇〇  
近藤製藥場 大阪府堺市遠里小野町三七〇

四、内外品競争狀況

國産品は濃度二〇%乃至三〇%にして輸入品の四〇%なるに及ばざるも、實用上には支障なく、價格に於ては其の純分に換算し國産品の疋當り三圓見當なるに對し、輸入品は四圓以上なり(昭和七年十一月)。

本品の價格は主として、電力費に依りて左右せられ、且つ比較的稀薄なる液體なる故、運賃も亦相當大なる影響を有す。依て國産品は輸入品との競争上自ら有利なる立場にあり。

二、鹽化アンモン

一、概説

鹽化アンモンは金屬鐵着劑、起寒劑として使用せらるゝ外、アンモニア鹽類の製造に供せらる。本邦に於ては從來之が製造者なく、全く輸入に俟ちつゝありしが、昭和六年より北海曹達株式會社に於

て製造を開始し、自家製造の合成鹽酸及國産の液體アムモニアを原料として、輸入品に對抗する製品を供給しつつあり。

二、輸出入状況

(イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和四年	四、一七二、一〇〇斤	四〇一、二二四圓
昭和五年	三、六三一、九〇〇	二九六、五〇六
昭和六年	三、七一〇、二〇〇	二六七、五二一
昭和七年	三、〇一四、三〇〇	二六九、六九四

國別輸入額 (昭和六年)

國名	數量	價額
英吉利	二、五四九、五〇〇斤	一八三、〇〇〇圓
獨逸	一、一五七、一〇〇	八四、〇〇〇
其他	三、六〇〇	—

(ロ) 輸出額 なし

三、生産状況

(イ) 生産額

前記の如く本品は最近に至り漸く生産を見るに至りたるものにして、數量價額等詳かならず。然れども爲替關係に依り、輸入品の價額騰貴し居るを以て、比較的速かに國內需要を満すに足るべき生産あるに至る見込みなり。

(ロ) 主要生産者名及所在地名

北海曹達株式會社

東京市日本橋區本革屋町五

四、内外品競争状況

(イ) 競争外國品の製造者名

ブランドナーモンド會社月印 (英吉利)、イーゲー會社 (獨逸)

(ロ) 品質及價額の比較

國産品と外國品との品質及價格を比較表示すれば左の如し。

品別	品質		價額 (100 疋に付)	
	昭和六年十一月	昭和七年十一月	昭和六年十一月	昭和七年十一月
國産品	九七・五%	九九・九%	一四・三〇	二六・四〇
輸入品	九九・八	九九・八	一七・六〇	三三・〇〇

### 三、炭酸アンモン

#### 一、概説

炭酸アンモンは主として麵麩、菓子等の製造に使用せられ、歐洲大戰中は本邦に於ても多少製造せられたる事あるも、大戰後製造するものなく、漸く昭和七年三月より株式會社住友肥料製造所に於て、之れが製造を開始するに至れり。同所に於ては、空中窒素固定法に依るアムモニア及炭酸瓦斯より製出しつゝあるものにして、品質優良なるのみならず、其の價格に於て將來も充分輸入品に對抗し得べしと謂ふ。

#### 二、輸出入状況

##### (イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和三年	四五二、〇〇二疋	一一七、七〇六圓
昭和四年	六〇八、七八八	一四四、三六六
昭和五年	六五五、二九三	一三二、〇一〇
昭和六年	四九八、〇一一	九五、九七〇

昭和七年

四〇七、二一八

九八、三二三

##### 國別輸入額 (昭和六年)

國名	數量	價額
英吉利	一三六、九二〇疋	二四、〇〇〇圓
獨逸	三六七、〇八〇	七一、〇〇〇

昭和三年より昭和六年迄は、國內に生産せられざりしを以て、輸入額は同時に國內需要額を示すものにして、右四年間の平均額を採れば、一ヶ年平均約五五〇、〇〇〇疋の國內消費あるものと考へらる。

##### (ロ) 輸出額 なし

#### 三、生産状況

##### (イ) 生産額

上記の如く本品は株式會社住友肥料製造所に於て、昭和七年三月より製造開始せられたるものにして、生産數量未だ詳かならざるも、昭和八年五月より同所の製造能力は、日産三噸に増産せらるゝ見込なるを以て、前記國內需要を充して餘りあるに至るべし。

##### (ロ) 主要生産者名及所在地名

大阪市東區北濱五ノ二二

株式會社住友肥料製造所

#### 四、内外品競争狀況

##### (イ) 競争外國品の製造者名

ブランナーモンド會社(英吉利)、イーゲー會社(獨逸)

##### (ロ) 品質及價額の比較

内外品の品質を比較表示すれば左の如し。

國産品	輸入品
(一) 純白色	淡赤色斑點あり。
(二) 微細粉末にして其の儘使用せらる。	粉末なるも塊狀を爲し使用前一應粉碎するを要す。
(三) 加熱すれば全部揮散す。	加熱すれば微量の黑色殘滓を留む。
(四) 純重炭酸アンモンにして他物を混在せず。	分解防止の爲め少量の添加物を含有するものあり。

##### 價額 (昭和七年十一月現在)

國産品	輸入品
一〇〇封度に付	一二・〇〇 <sup>円</sup>
同	一四・五〇

#### 四、硫酸アンモン

#### 一、概説

硫酸アンモンが肥料として重要なことは、云ふ迄もなき事なるが、本邦に於て硫酸アンモンの製造に一時期を劃したるは、明治四十三年日本窒素肥料株式會社が、熊本縣水俣町に石炭窒素法に依る空中固定工場を起したるに創まる。石灰窒素法は其の後電氣化學工業株式會社、北陸電氣株式會社(大同肥料株式會社の前身) 苫小牧電氣工業株式會社、北越水力電氣株式會社、昭和肥料株式會社等に於て實施せらるゝに至りたるが、世界大戰中獨逸に於て工業化せられたる空中窒素及水素直接合成法に依る硫安工業の發達と共に、石灰窒素法工場は石灰窒素そのもの、供給に重きを置くこととなり、硫安供給の大半は、直接合成法に依るに至れり。我國に於ける直接合成法硫安製造會社は、大正十三年初めより製造開始を見たる日本窒素肥料株式會社延岡工場を始め、クロード式窒素工業株式會社、大日本人造肥料株式會社、昭和肥料株式會社、株式會社住友肥料製造所、三池窒素工業株式會社の六會社に及び、其の他朝鮮には朝鮮窒素肥料株式會社の設立あり。斯くて石炭乾餾副産物としての硫安、石灰窒素法に依る硫安及直接合成法に依るものを合算する時は、最近に於ける生産額は内地朝鮮を併せ年額九五〇、〇〇〇噸に達する狀況にして、國內消費高を遙かに超過するに至れるのみならず、既設工場の擴張及新工場設立の計畫ありて、生産は益々過剰に陥らんとする趨勢にあり。

二、輸出入状況

(イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和三年	二八四、四八〇疋	三六、三〇三、九四九圓
昭和四年	三八〇、六五八	四八、〇八六、一五四
昭和五年	三〇三、〇〇六	二九、六二四、〇六四
昭和六年	二二四、一四八	一五、八六一、三三六
昭和七年	一一八、七三五	七、〇三五、三五四

國別輸入額 (昭和六年)

國名	數量	價額
關東州	六、七八一疋	四四〇、〇一六圓
英吉利	五三、三七〇	三、七八八、四六四
獨逸	一五四、六八六	一〇、九八四、六一三
北米合衆國	三、七四三	二九七、〇四七
其他	五、五六九	三五一、一九六

上記の如く國內に於て、硫安の生産は既に過剰となれるに拘らず、歐洲に於ける過剰硫安は、東洋に其の市場を求むるの外なき爲め、本邦輸入額も今尙相當額を示しつつあり。

(ロ) 輸出額 なし

三、生産状況

(イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和三年	二一二、四〇四疋	二七、〇八七、六一二圓
昭和四年	二三五、一八七	二八、〇六四、三六〇
昭和五年	二六九、〇六二	二二、四四六、六一五
昭和六年	三七〇、九七五	二五、三一六、二九九
昭和七年	四六一、一〇〇	—

上記は内地に於ける生産額にして、此の外朝鮮窒素肥料株式會社の合成法硫安及朝鮮兼二浦三菱製鐵株式會社の副産硫安の生産額は、昭和七年に於て合計二八七、四〇〇疋に達し、之を上記内地生産額に合算する時は昭和七年總生産額は七七七、〇〇〇疋に及ぶ。而して此の生産額は内地、朝鮮及臺灣に於ける總消費額に大體對應するものにして、自給自足の域に達したるものなるが、生産額は尙著しく増加すべき趨勢にあること既記の如し。

(ロ) 主要生産者名及所在地名



日本窒素肥料株式會社  
 昭和肥料株式會社  
 大日本人造肥料株式會社  
 三池窒素工業株式會社  
 クロード式窒素工業株式會社  
 株式會社住友肥料製造所  
 電氣化學工業株式會社  
 北越水力電氣株式會社  
 朝鮮窒素肥料株式會社

大阪市北區宗是町一  
 東京市京橋區室町一ノ七  
 東京市麴町區丸之内一ノ八  
 東京市日本橋區室町二ノ一  
 東京市日本橋區室町二ノ一  
 大阪市東區北濱五ノ二二  
 東京市麴町區有樂町一ノ一  
 長岡市本町三丁目八九六  
 朝鮮咸鏡南道咸興郡雲田面湖南里一

#### 四、内外品競争狀況

##### (イ) 競争外國品の製造者名

ブランドナーモンド會社(英吉利)、イーゲー會社(獨逸)

##### (ロ) 品質及價額の比較

政府は需給及價格調節の爲め、昭和六年十二月以來輸入許可制を布きつゝあり。内外品間に品質

上の問題あることなく、唯需給及爲替等の關係に依り相場に變動を來すことあるのみ、昭和六年十一月底當り六〇圓見當のもの、昭和七年十一月には輸入品の價額騰貴に依り、一〇一圓乃至一〇三圓を稱へたり。

##### (ハ) 競争上不利及有利とする點

本邦硫安工業が外國斯業に比し不利とする所は、一般に外國特許權及高價なる輸入機械を使用しつゝあることなり。

其の他諸外國に比し、不利又は有利なりとして特記すべき點なし。

## 五、ソーダ灰

### 一、概 説

大正六年旭硝子株式會社は、福岡縣戸畑市にアンモニア曹達法工場を創設し、本邦ソーダ灰工業の基礎を築き、爾來長年月に亘り困難なる工業的試煉に堪へたる結果、漸く事業の確立を見、日本曹達工業株式會社と共に、其の製造能力に於て本邦に於けるソーダ灰需要高を凌駕するに至れり。

ソーダ灰の原料たる工業用鹽は青島、關東州、臺灣、加奈陀、亞弗利加及西班牙等より移輸入せら

るゝものなるが、諸外國に於けるソーダ工業用原料鹽に比すれば、其の價格著しく高價にして、原料鹽供給の問題は本工業上最大の難點とせらる。...

二、輸出入狀況

(イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和四年	七九、一一三噸	五、三一〇、〇七六圓
昭和五年	六五、二〇五	三、九七一、一三七
昭和六年	五四、三三六	二、九四八、三六五
昭和七年	四六、四三三	二、五一九、七二二

國別輸入額 (昭和六年)

國名	數量	價額
中華民國	六、六五二噸	二九二、〇〇〇圓
露領亞細亞	五三	二、〇〇〇
英吉利	五、四六六	三四〇、〇〇〇
露西亞	一、三二一	七四、〇〇〇
北米合衆國	一一、一二八	六一〇、〇〇〇
東部亞弗利加	二九、七一六	一、六二七、〇〇〇

上記の如く昭和六年に於ては東部亞弗利加、即ちマガヂソーダ灰の輸入多額を占めたるも、其の後同製品は本邦品に壓倒せられ、現今に於ては輸入品は主として、英國ブランナーモンド會社製品なり。

(ロ) 輸出額 なし

三、生産狀況

(イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和三年	三〇、九二八噸	二、四七五、八八〇圓
昭和四年	四三、五八三	三、八五九、四七一
昭和五年	五七、二三三	四、四三六、〇六三
昭和六年	九三、二四三	五、九四六、八四九
昭和七年 (十一月迄)	一一六、九七七	六、七一四、二八〇

上記の如く生産額は昭和六年以後激増を見たるが、現在に於ては製造能力日産四四〇噸に及び、尙昭和八年下半期には八〇〇噸に達する見込なり。

(ロ) 主要生産者名及所在地名

旭硝子株式會社

東京市麴町區丸之内一ノ八ノ一

日本曹達工業株式會社

山口縣徳山町

### 四、内外品競争狀況

内外品の價格及品質を表示すれば下の如し。

年次	價格(越當り)		品質	
	旭硝子製 ブランドナイモン ト會社製月印	旭硝子製 輸入品	純分	月印 露西亞品
昭和六年十一月	五七・〇〇	六二・〇〇	九九・四%	九九・二—九九・三%
昭和七年十一月	七〇・〇〇	一〇五・〇〇	九九・四%	九七・六—九九・七%

即ち最近に於ける本邦製品は、品質に於て輸入品に優り、價格亦低廉なり。

本邦品の外國品との競争上不利とする所は、既記の如く原料食鹽の高價なる點にあり。

## 六、重碳酸ソーダ

### 一、概説

重碳酸ソーダは醫療用、飲料及ベーキングパウダー製造用等に供せらるゝものなるが、本邦に於ては旭硝子株式會社にて、大正十一年以來工業的に製造し、最近生産増加し輸入を防遏するに至れり。

## 二、輸出入狀況

### (イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和四年	七、九〇七、八二〇疋	七四二、八五四圓
昭和五年	三、五三七、九〇〇	三〇二、八四三
昭和六年	四、四四九、〇〇〇	三五九、四九〇
昭和七年	三、一七四、三〇〇	三〇九、一一六

### 國別輸入額 (昭和六年)

國名	數量	價額
英吉利	三、二三二、六八〇疋	二六二、〇〇〇圓
露西亞	一八九、五四〇	一四、〇〇〇
北米合衆國	一、〇二六、三〇〇	八二、〇〇〇

ソーダ灰と同じく本品の輸入標準品は英國ブランドナイモンド會社製品なり。

### (ロ) 輸出額 なし

## 三、生産狀況

### (イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和四年	一、三五九、〇一三	一六九、〇三二圓
昭和五年	二、二八二、八一二	二三二、一九五
昭和六年	三、〇七九、〇〇〇	—
昭和七年 (推定)	六、〇〇〇、〇〇〇	—

三二六

(ロ) 主要生産者名及所在地名

旭硝子株式会社 東京市麴町區丸之内一ノ八ノ一

四、内外品競争狀況

本邦品は日本藥局方に適合し、輸入品に遜色なく價格亦低廉なり。

七、苛性ソーダ

一、概説

苛性ソーダは食鹽水の電氣分解又はソーダ灰の苛性化に依りて製造せらる。保土ヶ谷曹達株式會社は、本邦に於ける最初の電解法苛性ソーダ製造會社として、大正四年三月に其の設立を見、爾來歐洲大戦中相亞いで新會社の設立あり、今日の隆昌を見るに至りたるが、電解法に依る時は苛性ソーダと

共に鹽素を生成するを以て、其の苛性ソーダ生産高は鹽素又は晒粉の需要範圍内に限られ、本邦に於ては總需要量現在約一〇萬噸に對し、電解法生産高は三割見當なり。

然るに最近ソーダ灰工業の發展と共に、ソーダ灰の苛性化に依る苛性ソーダの生産を促し、既に日本曹達工業株式會社に於ては、昭和六年四月以來其の製品を市場に賣出し、逐次増産を行ひつゝある一方、旭硝子株式會社に於ても苛性化設備の建設に着手せり。而して之等苛性化増産新設計畫實現後に於ける製造能力は、電解法の能力をも併せ一ヶ年約一五萬噸に達する見込にして、國內需要量を超過すること五萬噸に及ぶ。

苛性ソーダは石鹼、人造絹絲、和紙、染料竝に工業藥品の製造、石油精製、綿布加工染色等に使用せられ、用途極めて廣汎なるが、殊に最近人造絹絲製造用の需要急激に増加せり。

本邦に於ける苛性ソーダ工業の最大の難點が、原料食鹽の供給を海外に仰ぐことにあるは、ソーダ灰の場合と同様なり。

二、輸出入狀況

(イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和三年	六一、二二三噸	八、二〇一、二二一圓

三二七

昭和四年	四二、三八八
昭和五年	三七、五九二
昭和六年	四一、五九五
昭和七年	二八、一八五

三二八

國別輸入額 (昭和六年)

國名	數量	價額
露領亞細亞	一九四噸	二二、〇〇圓
英吉利	一六、八〇二	二、〇三一、〇〇〇
獨逸	三三九	四八、〇〇〇
露西亞	六、六〇四	八二四、〇〇〇
北米合衆國	一七、六五七	二、二七四、〇〇〇

上記の如く苛性ソーダの輸入額は、最近著しく減少し、遠からずして輸入の必要なきに至るべく豫想せらる。本邦に對する主なる輸入國は英吉利にして、同國ブランナーモンド會社製月印は、久しく本邦市場を支配しつゝありたり。

(ロ) 輸出額

最近の低爲替に依り多少輸出せられつゝあるも、其の量未だ著しからず、詳細不明なり。

三、生産狀況

(イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和三年	二八、七〇〇噸	五、一九一、六九一圓
昭和四年	五七、三八二	六、二九〇、七五四
昭和五年	三四、七三八	二六、〇〇〇
昭和六年	四八、五三六	五、六六四、二〇七
昭和七年	七一、三二六	七、〇八一、七七七

(主要十二會社生産額)

(ロ) 生産能力

電解法に依る生産能力は現在一ケ年三九、二〇〇噸にして、苛性化法は四四、〇〇〇噸なり。而して昭和八年下半期苛性化法の能力は、一一萬六千噸に増大すべく、苛性化法のみにも國內需要を満し得るに至るべし。

(ハ) 主要生産者名及所在地名

(一) 電解法

- 旭電化工業株式會社 東京市麴町區丸之内三ノ六
  - 大日本人造肥料株式會社 東京市麴町區丸之内一ノ八
  - 日本曹達株式會社 東京市麴町區丸之内二ノ一二
  - 北海曹達株式會社 東京市日本橋區本革屋町五
  - 保土谷曹達株式會社 東京市芝區櫻田本郷町一〇
  - 三井鑛山株式會社 東京市日本橋區駿河町一
  - 昭和曹達株式會社 名古屋市昭和町四〇
  - 東海曹達株式會社 名古屋市南區西築地四號地五〇號
  - 大阪曹達株式會社 大阪市東區南久寶寺町四ノ七
  - ラサ島燐礦株式會社 大阪市西淀川區高見町一ノ六四
  - 南海晒粉株式會社 和歌山縣海草郡湊村大字一、三四二
- (二) 苛性化法
- 大日本人造肥料株式會社 前掲
  - 日本曹達工業株式會社 山口縣徳山町

旭硝子株式會社 東京市麴町區丸之内一ノ八ノ一  
 (昭和八年下半年より製品販賣の見込)

四、内外品競争狀況

(イ) 競争外國品の製造者名

ブランナーモンド會社「月印」(英國)、カストナーケルナー會社「~~月~~印」(英國)、ソルベーパーロセ  
 ス會社「錨印」(米國)、露國國營工場

(ロ) 品質及價額の比較

電解法に依る製品は水銀法のものを除きては、一般に苛性化法製品に比し、苛性純分低く輸入品は多く苛性化製品なる爲め、從來本邦の電解法製品は、其の純分含有量に於て輸入品に劣りたが、近年電解法業者の努力に依り、此の點も略々解決せらるゝに至りたり。最近の某社製品の品質價格を輸入品と比較表示すれば左の如し。

製 品 別	價 格		苛性ソーダ純分含有率
	昭和六年十一月	昭和七年十一月	
内地某製品	一三・〇〇 <sup>円</sup>	一八・〇〇 <sup>円</sup>	九五%
輸入同	一三・五〇	一八・五〇	九五—九六%

其の他本邦産苛性化製品及水銀法製品が、外國輸入品に匹敵することは云ふ迄もなき所なり。

(ハ) 競争上不利及有利とする點

本邦に於ては既記の如く原料食鹽を海外より輸入するの要あり、從て價格高く且つ供給上の不便を免れざることは、ソーダ工業上最も不利とする所なり。但し現今の如き爲替關係に於ては、輸入品は價格昂騰せるに對し、原料鹽の騰貴に依る影響は比較的著しからざる爲め、本邦製造業者は英米の輸入會社に比し有利の立場にあり。

八、青化曹達

一、概説

青化ソーダは主として、金銀の製煉及鍍金用に供せらるゝものなるが、從來國産品なく青化カリと併せ、一ヶ年四〇萬圓内外の輸入を見たるものなるが、日本曹達株式會社に於て、商工省より昭和二年度工業研究獎勵金の交付を受けて製造研究を爲し、昭和四年之が完成を告げ、爾來製造設備を擴張して、主として金製煉用に供給せり。次で昭和六年五月には、東洋曹達株式會社に於ても製造を開始し、最近の需要激増に拘らず國內消費高の七割に對しては、國産品の供給を見るに至りたり。

本品は金屬ソーダ及アムモニアを原料として製造せらるゝものにして、前記二會社共に自家製造の金屬ソーダ及國産液體アムモニアを使用しつゝあり。

二、輸出入狀況

(イ) 輸入額 (青化カリを含む)

年次	數量	價額
昭和三年	六二七、七二二疋	四〇〇、四一六圓
昭和四年	五四一、七二四	三四五、三八九
昭和五年	六〇五、三五〇	三五五、七八六
昭和六年	五九一、八九六	三〇四、〇七八
昭和七年	四五四、七三二	三一六、三一二

國別輸入額 (青化カリを含む)(昭和六年)

國名	數量	價額
關東州	六〇疋	一圓
英吉利	四三九、二六〇	二五二、〇〇〇
獨逸	五、八八〇	三、〇〇〇
北米合衆國	九二、二八〇	三〇、〇〇〇
加奈陀	五四、四二〇	一七、〇〇〇

外國品は歐米製造業者間の協定に基き、本邦に於ては日本ブランナーモンド會社を販賣店とし、カッセル品として輸入販賣せられつゝあり。

(ロ) 輸 出 額 なし

三、生産状況

(イ) 生 産 額

上記の如く本邦製造業者は、製造開始後日尙淺く統計の據るべきものなきも、其の生産能力に於ては需要に對し充分の供給力を有す。

(ロ) 主要生産者名及所在地名

日本曹達株式會社

東京市麴町區丸之内二ノ一二

第貳東洋曹達株式會社

東京市芝區田村町一丁目四ノ四

四、内外品競争状況

(イ) 競争外國品の製造者名

ブランナーモンド會社(英吉利)

(ロ) 品質及價額の比較

最近の國産品の品質は輸入品に匹敵し、其の純分九五%以上を有す。價格の比較左の如し。

年 次	國 産 品	輸 入 品
昭和六年十一月	一 封 度 に 付 〇・三〇	一 封 度 に 付 〇・三〇五
昭和七年十二月	一 封 度 に 付 〇・三七	一 封 度 に 付 〇・三七

(ハ) 競争上有利及不利とする點

國內製造者は尙製造上の經驗淺く、生産費幾分高價となるを免れざる上、使用者側の信用未だ薄きを不利とす。特に有利とする點は認められざる狀況にあり。

九、珪酸ソーダ

一、概 説

珪酸ソーダは珪砂に曹達灰を加へ熔融して製するものにして、石鹼の製造用に供せらるゝ外、接合劑及防火劑等として使用せらる。本邦に於ては日本製煉株式會社が、明治四十二年頃より製造し漸次生産を増加し、從來國內需要量の三分の二を供給しつゝありたるが、最近は需要の殆ど全部を供給するに至り輸入は、激減したり。珪酸ソーダ製造に適する珪砂は朝鮮、南洋等に産し、ソーダ灰は最近國産品の使用を見るに至りたり。



## 二、輸出入状況

### (イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和三年	一、九九七、四〇〇	二四一、一〇九圓
昭和四年	一、八九八、七六〇	一九六、五五七
昭和五年	一、九〇六、九八〇	一八三、九一六
昭和六年	三九三、四二〇	三一、四二二

本品は主として英吉利及北米合衆國より輸入せらるゝも、國別輸入額の詳細明かならず。

### (ロ) 輸出額

最近は支那南洋方面に對し國産品の輸出を見るも、數量價額等不明なり。

## 三、生産状況

### (イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和三年	五、六一〇、三五二	六〇六、九三五圓
昭和四年	六、九八七、九八〇	七一八、五〇四
昭和五年	八、二四一、〇四二	六九一、二八一

昭和六年	九、二四〇、二三一
昭和七年	一一、六七〇、九九〇

六八一、八四七
七九八、〇九〇

### (ロ) 主要生産者名及所在地名

日本製煉株式會社

東京市江戸川区小松川一ノ一

## 四、内外品競争状況

### (イ) 競争外國品の製造者名

ブランナーモンド會社「月印」(英吉利)、クロスフィールド會社「ピラミット印」(英吉利)、グリ  
 ースハイム會社「椿印」(獨逸)、ゲンボ會社「ゲンボ印」(和蘭)、フキラデルフキアゴールズ會社  
 (北米合衆國)

### (ロ) 品質の比較

最近の本邦製品は輸入一流品たる英國製品に匹敵し、獨逸製品及和蘭製品に優る。

### (ハ) 價格の比較

品別	昭和六年十一月	昭和七年十一月
國産品(三〇〇庇ドラム罐入)	一〇〇庇に付 八・〇〇	七・八〇
輸入品(同一不詳)	八・五〇	八・九〇
		三三七



北米合衆國

四、五六〇 一三四、四六〇

一

三七

三八

三四〇

上記の如く重クロム酸カリは主として獨逸より、又重クロム酸ソーダは獨逸及米國より輸入せらる。

(ロ) 輸出額 なし

### 三、生産状況

(イ) 生産額

年次	重クロム酸カリ		重クロム酸ソーダ		合計
	数	量	價	額	
昭和四年	八〇〇、四六六	八一三、二〇〇	三七四、六〇五	三三〇、九〇〇	七〇五、五〇五
昭和五年		九九〇、〇〇〇	三一三、七〇〇	三四七、〇〇〇	六六〇、七〇〇
昭和六年(推定)	七五一、〇〇〇	一、二三七、〇〇〇	三一八、〇〇〇	四〇八、〇〇〇	七二六、〇〇〇
昭和七年(推定)	九五六、〇〇〇	一、六四八、〇〇〇	四三〇、〇〇〇	五七七、〇〇〇	一、〇〇七、〇〇〇

(ロ) 主要生産者名及所在地名

日本製煉株式会社

東京市江戸川区小松川一ノ一

### 四、内外品競争状況

(イ) 競争外國品製造者名

イー・シー・アイ會社(英吉利)、イー・ヂー會社(獨逸)、ミユチユアル會社(北米合衆國)

(ロ) 品質及價格の比較

國產品及輸入品は品質上優劣なし。

價格を比較表示すれば左の如し。

國產品	昭和六年十一月		昭和七年十二月	
	重クロム酸カリ	重クロム酸ソーダ	重クロム酸カリ	重クロム酸ソーダ
(一〇〇瓶に付)	四三・〇〇	三三・〇〇	四五・〇〇	三五・〇〇
輸入品(同)	四六・〇〇	三五・五〇	五六・〇〇	四七・〇〇

(ハ) 競争上不利及有利とする點

原料クロム鐵礦の純含有量比較的少なきこと、及カリの供給を輸入に俟たざるべからざること、本工業の外國會社との競争上不利とする所なるが、他面本工業は最近の爲替相場の低落に依り、最も恵まれたるもの、一なり。

## 一一、塩素酸カリ

### 一、概説

鹽素酸カリは鹽化カリ水溶液の電氣分解に依つて製造するものにして、主として燐寸の製造に使用せらるゝ外、火藥及染料の製造、染色用及醫藥として使用せらる。

本邦に於ては世界大戰中輸入杜絶したる際、日本化學工業株式會社を始め、製造工場二十餘を算し、其の生産額も最盛時年額六千噸に及ぶの狀況なりしが、大戰終熄後低廉なる輸入品に壓倒せられ、休業するもの續出し、遂に全く壞滅したり。然るに最近の爲替變動と瑞典燐寸工業の破綻に依り、本工業の我が國に於ける成立は俄に有望となり、大戰當時の經驗を有する日本沃度株式會社に於て、昭和七年四月より之が製造を開始したるが、其の製造能力は優に國內需要量を満足するに足るのみならず、之れが輸出をも爲し得るに至りたり。

### 二、輸出入狀況

#### (イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和三年	二、五七九、六四〇疋	七〇九、九七七圓
昭和四年	三、一四七、四八〇	八五三、七五六
昭和五年	二、一七八、九六〇	五六九、三六一
昭和六年	二、三一四、三八〇	六一八、一一六

昭和七年

一、〇一九、〇四〇

三七九、八四七

#### 國別輸入額 (昭和六年)

國名	數量	價額
佛蘭西	七、六二〇疋	二、〇〇〇圓
獨逸	一、二〇九、七八〇	三一三、〇〇〇
白耳義	四二、一八〇	一〇、〇〇〇
瑞典	二二三、一〇〇	六四、〇〇〇
瑞典	五一六、五四〇	一四二、〇〇〇
其他歐洲諸國	三〇五、一六〇	八四、〇〇〇

右表の如く鹽素酸カリは、從來獨逸よりの輸入主位を占めたるが、最近は瑞典よりの輸入漸次増加の勢を示せり。

#### (ロ) 輸出額 不明

### 三、生産狀況

#### (イ) 生産額

鹽素酸カリは最近製造開始せられたるものにして、生産額未だ明かならざれども、本邦唯一の製造者たる日本沃度株式會社は日産十五噸の能力を有し、需要年額二千五百噸を自給したる上、充

分の輸出餘力を有す。

(ロ) 主要生産者名及所在地名

日本 沃度 株式會社

東京市京橋區室町一ノ七ノ一味の素ビル

四、内外品競争狀況

(イ) 競争外國品の製造者名

イーゲー會社(獨逸)

(ロ) 品質及價格の比較

内外品に品質上の差異なく、最近は爲替關係上輸入品高價なる爲め輸入は激減し、本邦品の輸出を見るに至りたること既述の如し。

價格内外品共五〇庇に付

年 次

價 額

昭和六年十一月

一六・五〇

昭和七年十一月

二九・〇〇

(ハ) 競争上不利及有利とする點

鹽素酸カリの製造原料たる鹽化カリは、本邦に於ては生産額僅少なる爲め、輸入原料を使用せざ

るを得ず、此の點本品の製造上最も不利とする所なり。但し最近の爲替變動は本工業に絶對有利なる地歩を與へ、事業確立の見込十分なるに至らしめたり。

一一、ゼラチン

一、概 説

ゼラチンは牛骨、筋及標より製造せらる。標のみを原料とするもの最良にして、所謂薄ゼラチンとなり、寫真材料の製造或は食用に供せらる。中厚ゼラチン及厚ゼラチンは薄ゼラチンに比し品質劣り、食用、菓子製造用、接合用等に使用せられつゝあり。本邦に於ては歐洲大戰に當り輸入杜絶したる爲め、大正四年頃より之が製造を爲すもの續出したるが、現在事業を繼續するものは一、二に過ぎず。然るに最近製菓用、一般食料用及寫真乳劑用等各方面に於て需要著しく増加せるに伴ひ、之が製造を計畫するもの尠からず、昭和六年二月には新田帶革製造所に於て、從來の中厚及厚ゼラチンの外始めて薄ゼラチンの製造を開始し、其の他大阪の西田ゼラチン株式會社、神奈川縣の關東ゼラチン製造所等に於ても、相前後して薄ゼラチンを市場に出すに至りたり。

二、輸出入狀況

(イ) 輸入額

(一) 阿膠

年次	數量	價額
昭和三年	一、〇七〇、四七四疋	六〇五、五二三圓
昭和四年	一、三三三、三五四	七六一、〇一一
昭和五年	八二二、〇九七	四七六、八八七
昭和六年	九三二、二八二	四七三、二七四
昭和七年	五五六、五六二	三〇六、九〇〇

三四六

(二) ゼラチン

年次	數量	價額
昭和三年	一四六、二五四疋	二六四、三〇九圓
昭和四年	一四九、六五六	三〇五、七〇一
昭和五年	一二〇、四一六	二五六、四二七
昭和六年	一二五、二九四	二七二、五三八
昭和七年	七四、七〇五	二六五、三七五

(三) 阿膠及ゼラチン輸入合計額

年次	數量	價額
昭和三年	一、二一六、七二八疋	八六九、八三二圓
昭和四年	一、四八二、〇一〇	一、〇六六、七一二
昭和五年	九四二、五一三	七三三、三二四
昭和六年	一、〇五七、五七六	七四五、八一二
昭和七年	六三一、二六七	五七二、二七五

貿易統計上阿膠の中には、厚ゼラチン及中厚ゼラチンを含み、ゼラチンとして掲載せらるゝものは、所謂薄ゼラチンに限らるゝものゝ如し。而して純粹の阿膠は輸入額は僅少なるべきを以て、上記の合計額は大體各種ゼラチンの輸入額を示すものと考えらるゝことを得。ゼラチンは主として獨逸、佛蘭西、英吉利、瑞西、白耳義等より輸入せらる。

(ロ) 阿膠及ゼラチン國別輸入額 (昭和六年)

國名	數量 (單位疋)		價額 (單位千圓)	
	阿膠	ゼラチン	阿膠	ゼラチン
中華民國	一、五〇〇	—	〇	—
關東州	二八、六二〇	—	一〇	—
比律賓諸島	四、九八〇	—	—	—
英吉利	二一一、二〇〇	七、七四〇	八三	三六
合計	—	—	—	—
合計	一、五〇〇	二一八、九四〇	一〇	一一九

三四七

佛蘭西	二二二、六〇〇	四四、二八〇	二六六、八八〇	一九三	九三	二八六
獨逸	三三〇、一八〇	四七、三四〇	三七七、五二〇	一一四	八三	一九七
白耳義	二八、四四〇	一一、九四〇	四〇、三八〇	二二	一三	三五
伊太利	二九、四六〇	—	二九、四六〇	一一	—	一一
和蘭	一一、二四〇	—	一一、二四〇	七	—	七
瑞西	—	一一、五八〇	一一、五八〇	—	三九	三九
露西亞	三一、三八〇	—	三一、三八〇	一一	—	一一
其他歐羅巴諸國	二二、八〇〇	—	二二、八〇〇	八	—	八
北米合衆國	八、七〇〇	二、三四〇	一一、〇四〇	八	四	一二
濠太利	一八〇	六〇	二四〇	〇	〇	〇
合計						三四八

三、生産状況

本邦に於て生産せられつゝあるゼラチンは、厚ゼラチン及中厚ゼラチンを主とし、薄ゼラチンは昭和七年生産大約一三五、〇〇〇疋、價格一八〇、〇〇〇圓見當に過ぎず。

(イ) 生産額

各種ゼラチンの累年生産額を表示すれば左の如し。

年次	數量	價額
昭和四年	一、二五三、〇〇〇疋	七三四、〇〇〇圓

昭和五年	一、一八九、〇〇〇	七一四、〇〇〇
昭和六年	一、三七五、〇〇〇	七一八、〇〇〇
昭和七年	一、七三五、〇〇〇	九六五、〇〇〇(推定)

(ロ) 主要生産者名及所在地名

合資會社新田帶革製造所	大阪市浪速區久保吉町一、二八一
西田ゼラチン製造株式會社	大阪府三島郡吹田町
中井製膠所	大阪市旭區今津町九七六
關東ゼラチン製造所	神奈川縣愛甲郡愛川村半原

四、内外品競争状況

輸出品中著名なるものは厚ゼラチンにては、英國製エンバイヤ印、ラツバ印、獨逸製A・G・S等、中厚ゼラチンにては佛國コハネ會社リオン印、薄ゼラチンにては佛國コハネ會社金弗又は銀弗印、獨逸製椿印又は菜の花印等なりとす。食用、製藥用及接著劑用等の用途に對しては、本邦品は輸入品に比し遜色なく、價格は概ね二三割方低廉なり。

内外品價格比較表

品名	數量	價格	
		昭和六年十一月	昭和七年十一月
厚ゼラチン	五〇疋に付	一九・〇〇	二四・〇〇
國產品	同	二二・〇〇	二八・〇〇
輸入品	同	〇・四五	〇・五五
中厚ゼラチン(一號品)	一封度に付	〇・五二	〇・七〇
國產品	同	一・〇〇	一・〇五
輸入品	同	一・三〇	一・八〇
薄ゼラチン(一號品)	一封度に付	一・〇〇	一・〇五
國產品	同	一・三〇	一・八〇
輸入品	同	一・三〇	一・八〇

寫真用ゼラチンは本邦に於ては未だ工業的に製造せらるゝに至らず、夫々研究中に屬す。寫真用ゼラチンとして著名なる輸入品は、英國ネルソン會社製品及瑞西ウキンターツール會社製品なりとす。本品の製造に當り輸入品と競争上特に有利又は不利とする點なし。

### 一三、アセトン

#### 一、概説

從來のアセトン製造法は、木材の乾餾に依りて生じたる醋酸石灰を更に乾餾するにありたるが、最近玉蜀黍及カツサバルト等の澱粉質を特殊の細菌に依りて醱酵せしめ、ブタノールと共に製造する方法發見せられ、本邦に於ても大阪廣榮株式會社に於て工業的に製造しつゝあり。

本邦に於けるアセトン製造の鼻祖は北河豊次郎氏にして、明治廿八年沃度ホルム原料として製造を開始し、三十年より無煙火藥用アセトンを製出せり。次で明治三十八年には日本醋酸製造株式會社に於ても製造に従ひ、主として火藥用に供したり。

アセトンの主なる用途は火藥、セルロイド加工、塗料の製造等にあり、其の他溶劑として多方面に使用せらる。

#### 二、輸出入状況

##### (イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和四年	三五〇、五七一疋	三一八、〇六圓
昭和五年	一九三、三三一	一一六、四五一
昭和六年	二四四、八九四	一一四、八三〇
昭和七年	四二五、七一一	二七七、一五六



アセトンは米國、獨逸、瑞西、伊太利、佛蘭西等より輸入せらる。輸入品は主として工業用アセトンにして、從來價格低廉なりし關係上國産品を壓迫しつゝありたるが、昭和六年末金再禁止以來此の關係に變化を來し、國産品の増産を見るに至りたり。

(ロ) 輸出額 なし

三、生産狀況

(イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和三年	五三七、二九二瓩	三七五、二一〇圓
昭和四年	三六七、二四八	二八三、八八四
昭和五年	四七二、八三八	三七三、四〇三
昭和六年	三〇四、一七四	三四二、三五七
昭和七年	五三三、三三一	五九七、九三五

(ロ) 主要生産者名及所在地名

日本醋酸製造株式會社 東京市本所區横川橋五ノ四  
 北河製製品所 静岡縣志太郡島田町一、四〇九

大正化學工業株式會社

大阪府堺市元宮通一ノ一七

廣榮株式會社

大阪市旭區放出町六四五

四、内外品競争狀況

(イ) 競争外國品の製造者

コムマーシャル・ソルベント・コーポレーション(米國)、イーゲー社(獨逸)

(ロ) 品質及價格の比較

品質は内外品優劣なし。價格の比較左の如し。

國産品	昭和六年十一月現在(一瓩に付)		昭和七年十一月現在(一瓩に付)	
	純アセトン	工業用アセトン	純アセトン	工業用アセトン
國産品	〇・八三	〇・六六	〇・九五	一・一五
輸入品	〇・七六	〇・六三	一・〇〇	一・二〇

一四、グリセリン

一、概説

グリセリンは醫藥として使用せらるゝ外、爆藥原料となり、其他化粧品、インキ等の製造及紙煙

草等の加工に使用せらるゝものにして、石鹼製造の際生ずる廢液より採收し、或は油脂を分解してオレイン、ステアリン等と共に製造す。

本邦に於ては大正二年丸見屋商店にて、始めて自家石鹼廢液を原料として之が製造を開始し、大正六年には合同油脂株式會社の前身たる日本グリセリン工業株式會社の設立を見、政府の補助を得て油脂分解法に依りて大規模なる製造に着手したり。

本品の製造は石鹼、ステアリン、オレイン等の需要如何に依りて制限せらるゝも、爾來漸次生産の増加を見、國內需要量に對し約六割を自給するに至れり。

二、輸出入狀況

(イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和三年	二、三二一、五九七疋	一、六四一、三五一圓
昭和四年	一、一九九、二二五	六三一、一五八
昭和五年	一、七三四、六〇〇	七九三、〇八九
昭和六年	一、七四三、四二〇	六九一、一五二
昭和七年	二、九八一、四六〇	一、四二二、二一一

本品は主として英吉利及獨逸より輸入せらる。

國別輸入額 (昭和六年)

國名	數量	價額
英吉利	六七四、〇〇〇疋	二九三、〇〇〇圓
佛蘭西	六四、七〇〇	二四、〇〇〇
獨逸	九五五、一〇〇	三五二、〇〇〇

(ロ) 輸出額 なし

三、生産狀況

(イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和四年	三、二五四、〇九七疋	二、〇七八、一五八圓
昭和五年	二、八四七、〇三五	一、九四五、〇二〇
昭和六年	二、七八一、九七三	一、七一八、一八七
昭和七年	三、三一八、四一五	二、三〇八、〇六三

グリセリンは其の用途に依り品質に差異あり、本邦に於てはダイナマイト用、煙草用、化粧品用、日本藥局方、工業用等各種の品種に亘り生産せられつゝあり。

(ロ) 主要生産者名及所在地名

合同油脂株式會社

東京市丸之内一丁目八ノ一

花王石鹼株式會社長瀬商會  
 ライオン石鹼株式會社  
 丸見屋商店三輪善兵衛  
 ベルベット石鹼株式會社

東京市日本橋區馬喰町二ノ一二  
 東京市本所區向島須崎町二四八  
 東京市日本橋區米澤町  
 兵庫縣武庫郡大庄村又兵衛字西新田口ノ割一八

四、内外品競争狀況

(イ) 競争外國品の製造者名

リバーブラザース會社(英吉利)、フエンケル會社(獨逸)

(ロ) 品質及價格の比較

内外品は品質上差異なし。價格の比較左の如し。

品名	昭和六年十一月 百封度に付	昭和七年十一月 同上
國産品(日本藥局方)	三四・九〇	三五・四〇
外國品(日本藥局方)	四三・〇〇	四三・〇〇

(ハ) 競争上不利及有利とする點

グリセリンの製造は石鹼廢液又は油脂の分解に依ること既述の如く、其の生産量竝に價格は共生せられる石鹼、ステアリン、オレイン等の需要量及價格と相關聯する爲め、多量生産に依る輸入

品に壓迫を蒙ること多し。

唯原料たる魚油及大豆油等の供給に不安なきは、唯一の強味なり。

一五、オレイン

一、概説

大正六年日本グリセリン工業株式會社は、政府助成の下に油脂分解工業を創始し、本邦に於て始めてオレインの製造を開始せり。同年ミヨシ石鹼工業合資會社の前身たる三木工業所に於ても製造に着手し、從來輸入に仰ぎたるオレインも斯くの如くして、漸く國産化の途に著きたり。オレインは主として紡毛用に使用せらる。

二、輸出入狀況

(イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和三年	二二四、六〇二疋	一〇九、二九〇圓
昭和四年	三六一、六八一	二一五、六七一
昭和五年	二四九、二八五	一一二、二八三

昭和六年  
昭和七年

三二二、三四一  
二六八、〇五二

一〇〇、六六九  
七三、九九八

三五八

オレインは大部分濠太利より輸入せらる。即ち昭和六年の濠太利よりの輸入額は、三一〇、八六〇  
疋九九、〇〇〇圓なり。

(ロ) 輸出額 なし

### 三、生産状況

(イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和四年	一、四四三、七八〇疋	八八〇、六八八圓
昭和五年	八三七、三一五	五〇二、三八九
昭和六年	七八三、三四四	四一九、三〇九
昭和七年	七七八、一八〇	三四五、四七〇

(ロ) 主要生産者名及所在地名

合同油脂株式會社 東京市麴町區丸之内一丁目八ノ一  
 ミヨシ石鹼工業合資會社 東京市向島區吾嬬町東五丁目一七

### 四、内外品競争状況

輸入品は濠洲品T・K・S印を主とし、本邦品の一號品或はA號品に相當す。  
價格の比較左の如し。

品名	市價	
	昭和六年十一月	昭和七年十一月
國産一號品	三五・〇〇	三六・〇〇
輸入品 T、K、S印	三七・五〇	三八・〇〇

外國産品との競争上本邦製造者の有利又は不利とする點に就いては、グリセリンの項参照。

## 一六、ステアリン

### 一、概説

ステアリンはグリセリン及オレインと共に、硬化油又は牛脂を分解して製造せらる。本邦に於ては合同油脂株式會社の前身たる日本グリセリン工業株式會社が、大正六年政府助成の下に油脂分解工業を起し、グリセリン等と共に製造を開始し、現に本邦唯一の製造工場たり。ステアリンの主なる用途は、蠟燭の製造にあるも護謨、石鹼、化粧品等の製造にも亦使用せらる。

### 二、輸出入状況

#### (イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和三年	四五八、七六六疋	二七一、五七〇圓
昭和四年	四七〇、六七九	三三七、六三七
昭和五年	四一〇、六二六	二四二、四九五
昭和六年	四五七、〇八四	一八九、七二二
昭和七年	三二六、九五六	一七一、七五一

#### 國別輸入額 (昭和六年)

國名	數量	價額
英吉利	六五、二〇〇疋	二六、〇〇〇圓
獨逸	一三七、八〇〇	五一、〇〇〇
和蘭	一〇四、一〇〇	三三、〇〇〇
北米合衆國	一二九、六〇〇	七〇、〇〇〇

#### (ロ) 輸出額 なし

### 三、生産状況

#### (イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和四年	二一九、四二五疋	一七二、七九六圓
昭和五年	二〇〇、五九二	八九、一五二
昭和六年	二一三、三二一	七九、九四八

昭和七年に於てはグリセリンの需要増加及爲替關係に依る輸入の減少に伴ひ、相當の増産を見た結果、國內需要額に對する輸入及生産の從來の供給割合は全く顛倒したるものゝ如し。

#### (ロ) 主要生産者名及所在地名

合同油脂株式會社

東京市麴町區丸之内一丁目八ノ一

### 四、内外品競争状況

本邦品と競争状態にある輸入品は米國品アイポリ印、英國品アポロ印、和蘭品ゴーターエキストラ印及ゴータープライム印等にして、アイポリ印最も優良なりと稱せられつゝあるも、合同油脂株式會社に於ても、夫々之等に相當する製品を製造しつゝあり。

英國品アポロ印と之に相當する國産一號品の價格を比較すれば左の如し。

品 種	價 格(百封度に付)	
	昭和六年十一月	昭和七年十一月
國 産 一 號	三四・〇〇	三五・〇〇
輸 入 アポロ印	四〇・〇〇	四二・〇〇

競争上不利及有利とする點

グリセリンの項参照

一七、ロンガリット其の他の還元劑

一、概 説

本項に謂ふ還元劑はロンガリット、ブランキット、デクロリン等の商品名の下に輸入せらるゝ建築、拔染、或は漂白用還元劑を總括したるものにして、本邦に於ては歐洲大戰中輸入杜絶したるに際し、大正四年より大日本人造肥料會社にて、酸性亞硫酸ソーダの製造を開始したるに端を發し、最近は日本染料製造株式會社、第一製藥株式會社等に於ても、夫々輸入品に對抗する優良品を製造するに至れる結果、輸入額は兩三年來需要額の二割程度に激減したり。

二、輸出入狀況

(イ) 輸 入 額

年 次	數 量	價 額
昭和三年	一、一四五、七五九疋	九四三、四九五圓
昭和四年	一、四五三、四〇五	一、一六七、〇二二
昭和五年	三〇一、五三一	二五一、八六五
昭和六年	五八六、二四二	三三八、五〇四
昭和七年	二八二、一三二	一四八、四四〇

國別輸入額 (昭和六年)

國 名	數 量	價 額
英 吉 利	一五、〇〇〇疋	一〇、〇〇〇圓
獨 逸	五〇三、六〇〇	二五六、〇〇〇
瑞 西	二五、八〇〇	二三、〇〇〇
北米合衆國	四〇、二〇〇	四七、〇〇〇

上記の如く本品は大部分獨逸より輸入せらる。即ちロンガリット、ブランキット及デクロリンは何れも獨逸品なり。

(ロ) 輸 出 額 なし

### 三、生産状況

#### (イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和四年	五一九、七二六疋	五三九、七三一圓
昭和五年	八四一、二〇八	七八三、四三五
昭和六年	一、〇一一、二三七	八一七、八五四
昭和七年	一、六四八、六四五	一、五〇〇、〇八五

右の生産額中には所謂ハイドロサルファイト及デクロリン對抗品等、此の種還元劑全部を包含す。

#### (ロ) 主要生産者名及所在地名

大日本人造肥料株式會社	東京市城東區大島町一ノ五九
第一製藥株式會社	東京市日本橋區江戸橋三ノ一
日本染料製造株式會社	大阪市此花區春日出町一一九ノ二
京都藥品研究所	京都市下京區西七條石ヶ坪町

### 四、内外品競争状況

輸入額の大半を占むるロンガリット、デクロリン及ブランキット等は、何れも獨逸I・G會社製

品なり。その他英國ブラナーモンド會社製品も亦多少輸入せらる。内外品共に一定濃度のものを販賣しつゝありて、品質上優劣なし。内外品の價格を比較したる一例を示せば次の如し。

品名	價額(百斤)	
	昭和六年十一月	昭和七年十一月
國産品	五二圓	七五圓
輸入品	五五	八〇

本品は國內生産の増加に依り、近く輸入全く防遏せらるゝに至るべく豫想せらるゝも、内外品の比較は分析法等に累せられ比較的困難なる爲め、從來慣用せる外國品に依頼して、容易に國産品を使用せざる傾向あり。然れども、國産品は製造後、短時日の間に消費者に渡り、從て品質の低下の恐なきを以て此の點外國品に比し有利なり。

## 一八、染料

### 一、概説

大正三年三井鑛山株式會社が、東京工業試験所の研究に成るアリザリンレッドの製造を開始したるを以て、本邦合成染料工業の濫觴とし、大正四年には日本染料製造株式會社の創立を見たる外、相亞

いで大小の染料製造工場續出したるが、歐洲大戰後製造を休止したるもの多數に上り、現在に於ては其の後設立を見たるものを加ふるも、數社を數ふるに過ぎず。然れども、大戰後に於ける經營上の苦難を経たる結果、現存の各染料會社は堅實なる基礎を有し、本邦に於ける染料需要額一ヶ年一萬疋の内約八千疋を自給し得るに至りたるのみならず、相當額の輸出を爲しつゝある狀況なり。

二、輸出入狀況

(イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和三年	二、七三九、〇〇〇疋	九、九二四、〇〇〇圓
昭和四年	二、六二一、〇〇〇	八、九四二、〇〇〇
昭和五年	一、五四五、〇〇〇	五、八〇九、〇〇〇
昭和六年	一、九九八、〇〇〇	七、二八五、〇〇〇
昭和七年	一、九七六、〇〇〇	九、〇六六、〇〇〇

種類別輸入額

種類別	昭和五年		昭和六年		昭和七年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
鹽基性染料	一五四 <sub>疋</sub>	一、〇一一 <sub>千円</sub>	一六四 <sub>疋</sub>	一、〇四一 <sub>千円</sub>	一六六 <sub>疋</sub>	一、四二五 <sub>千円</sub>

種類別	英吉利		佛蘭西		獨逸		伊太利		瑞西		北米合衆國		其他	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
直接染料	四三六	一、三三八	四七五	一、六三九	三八六	一、八〇三	一、五八八	一、三二一	一、五八八	一、三二一	一、五八八	一、三二一	一、五八八	一、三二一
酸性染料	二一四	八三八	二七四	一、一〇八	三二一	一、五八八	一、三二一	一、五八八	一、三二一	一、五八八	一、三二一	一、五八八	一、三二一	一、五八八
媒染染料	一四九	六二七	二五五	九九一	二八五	一、三一一	一、三一一	一、三一一	一、三一一	一、三一一	一、三一一	一、三一一	一、三一一	一、三一一
硫化染料	八四	二六六	九八	二七六	八七	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
建築染料	四八四	一、六二五	七七四	二、一〇四	六九八	二、四四二	二、四四二	二、四四二	二、四四二	二、四四二	二、四四二	二、四四二	二、四四二	二、四四二
内人造藍	三九八	一、〇二一	五九五	一、三二九	五八四	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五
其他	八六	六〇四	一〇九	七七五	一一四	一、〇一七	一、〇一七	一、〇一七	一、〇一七	一、〇一七	一、〇一七	一、〇一七	一、〇一七	一、〇一七
其他	二四	一〇四	二九	一二四	三二	一六一	一六一	一六一	一六一	一六一	一六一	一六一	一六一	一六一

種類別國別輸入額 (昭和六年、單位疋、千圓)

種類別	英吉利		佛蘭西		獨逸		伊太利		瑞西		北米合衆國		其他	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
鹽基性染料	一九	六	九八	一〇一	七四五	四七九	六〇〇	三	四八八	三三三	三三九	一〇八	一	一
直接染料	一	一	三六三	一八二	一九八	七六	三三四	一〇三	七五八	二七三	一三五七	三三	一	一
酸性染料	〇四	一	一一九	七	二七七	六九	六八	二〇	六二七	二三四	三三〇	一〇三	〇	〇
媒染染料	二八	一	四四五	三	一三三	五九	七〇	一八	六二七	二六七	四〇一	九	一	一
硫化染料	一	一	〇六	二	二二八	二〇五	三三	七	六八	二〇	一八二	三	一	一
建築染料	〇一	〇	四二二	二七	四六七	一、三九二	〇八	四	一二五	三〇八	一一二	二六九	一	一
内人造藍	〇一	〇	四二一	二五	三四〇	六九	〇二	〇	九九九	二四三	一一三	二六九	一	一



上記の如く昭和七年に於ける輸入額は、昭和三年及四年に比し數量に於て二割五分内外の減少なるが、輸入品價格騰貴したる爲め、金額に於ては減少率約一割見當なり。

輸入染料の半は獨逸製品にして、其の他瑞西及米國製品も相當の輸入あり。輸入の減少したる反面に於て、輸出の激増を見、昭和七年に於ける輸出額は昭和三、四年の頃に比し數量に於て四、五倍、價格に於て三、二倍の増加を示せり。

(イ) 輸出額

年次	數量	價額
昭和三年	一、一六六、一四〇疋	五八〇、九一八圓
昭和四年	八一、四四六	三六九、六五八
昭和五年	二、〇八五、九五六	八二三、三七六
昭和六年	二、〇一一、七五三	五〇九、四五九
昭和七年	四、五二一、一三二	一、五二二、六四八

輸出染料は主として硫化染料にして、支那方面に輸出せらるゝもの多し。

國別輸出額 (昭和六年)

國名	數量	價額
中華民國	一、九〇三、八六〇疋	四八二、〇〇〇圓
關東州	三七、二〇〇	七、〇〇〇
香港	六四、九二〇	一四、〇〇〇
英領印度、蘭領印度、暹羅、其他	五、七二〇	四、〇〇〇

二、生産狀況

(イ) 生産額

(一) 數量 (單位疋)

品名	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年
鹽基性染料	二七五、六九〇	三七七、八〇八	二五七、六三三	三二六、七六三	五六一、四四一
直接染料	六五八、〇六三	七〇一、八〇一	六〇九、三三三	七四一、三三一	一、三三二、四七七
酸性染料	二六八、六三〇	三〇九、四一一	三三九、六七七	三六六、七九〇	三九三、五〇〇
酸性媒染染料	四三、五五六	二六、五七九	四一、五五六	九、八三七	一四〇、〇五六
媒染染料	四一、六七三	一九、七七八	二〇、七八三	一〇、一七一	一四、六三三
硫化染料	六、九一九、九六八	六、三九九、九七八	六、四七三、九四七	八、二〇六、八九五	二一、一七三、七三二
建築染料	四一、九四〇	七七、七四九	九四、四三三	一三九、六四四	二四〇、一〇九

品名	(一) 價額 (單位圓)				
	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年
油解染料其他	四〇、一一一	八、四八五	四三、九三三	七四、九七〇	一九四、一一四
計	八、三九六、六三二	七、八二二、五九九	七、七九〇、三六六	九、六五九、三六〇	一四、〇四三、一〇一
鹽基性染料	一、二六三、九八八	一、三三九、六六六	一、〇七一、五九〇	一、三六六、五三三	二、一〇九、〇七六
直接染料	一、九三五、三三七	二、一九九、一六六	一、七〇八、八三六	一、八〇九、三三四	三、三九六、九〇七
酸性染料	八一九、八四九	八三二、〇五五	六四六、五五五	六八八、六七七	一、二五二、二五〇
酸性媒染染料	一〇四、八三六	七三、九七四	一〇〇、二八五	三五、一六六	四八一、四三七
媒染染料	八二、四六八	一四三、五七七	一三六、〇〇九	一〇六、五三三	七三、五三四
硫化染料	三、〇四三、三三三	二、七三四、六六一	二、三三三、三三三	二、三三九、四八八	五、二四〇、〇五〇
建築染料	二六、三三二	三二、八七五	四三、五三四	五九、五〇九	一、〇四〇、五〇〇
油解染料其他	九五、八五五	五、八六六	一〇五、一〇四	一〇一、七三五	二二五、〇七五
計	七、五六一、七〇七	七、八六、八〇〇	六、五五四、三三六	七、〇一七、二三三	一三、八五八、八六一

上表に依りて明かなるが如く、染料生産額は昭和七年に於て急激なる増加を示し、前年に比し數量に於て四割五分、價額に於て九割七分の増産となり、生産品種も亦著しく増加したる結果、比較的的特殊なる染料のを除き、國産品の自給を見るに至りたり。之本邦に於ける製造技術の圓熟したる時機に當り、偶々爲替變動に會し輸入品の市價昂騰したるに依る。

(ロ) 主要生産者名及所在地名

三井鑛山株式会社	東京市日本橋區室町二ノ一
保土ヶ谷曹達株式会社	東京市芝區櫻田本郷町一〇
合資會社田岡商店	大阪市北區東梅田町二
日本染料製造株式会社	大阪市此花區春日出町一九九ノ二
秋陸染料製造所	堺市北旅籠町東二丁目二
尾崎染料製造所	岡山縣兒島郡琴浦町田ノ國
帝國染料製造株式会社	福山市入船町一、〇六六
三星染料株式会社	廣島市府中町一九〇ノ一

四、内外品競争狀況

(イ) 競争外國品の製造者名

イー・ゲー染料工業會社(獨逸)、デュボン會社(米國)、ナショナルアニリン會社(同)、ゼネラルダイスタツフコーポレーション(同)、ニューボート化學會社(同)、バーゼル化學工業會社(瑞西)、サンドー化學會社(同)、ガイギー會社(同)、イー・シー・アイ會社(英國)、クルマン染料化學會社(佛國)、サンデニ染料化學會社(同)、サンクレア化學染料會社(同)、アチエンデ化

學會社(伊太利)

(ロ) 品質及價格の比較

大正十五年より昭和二年に亘り、東京工業試験所に於て行はれたる比較試験成績並に其の後に於ける國産品の進歩等より考察し、國産品が輸入品に比し優ることあるも劣ることなきことは之を推定し得らるべく、價格は左記の如く國産品の方遙かに低廉なり。

輸 入 品	價 格		對 抗 國 産 品	價 格	
	昭和六年 十一月	昭和七年 十一月		昭和六年 十一月	昭和七年 十一月
ボンタミンエローJHK (米國)	三・九〇	六・五〇	クリソフエニンNSコンク (日染)	四・一〇	五・七〇
スカレットフオアシルク (NX)(ドイツ)	二・八〇	四・九〇	シルクスカレット (日染)	二・七五	三・五〇
ローダミンBエキストラ (SC)(スイス)	七・二五	一一・〇〇	ローダミンBコンク (日染)	七・一〇	七・六六
ダイヤモンドブラック FOO(BY)(ドイツ)	四・三〇	五・八〇	サンクロミンブラックF コンク (日染)	二・六〇	三・六〇
ナフトールAS (ドイツ)	二・八五	三・二五	ナフトイドAS (日染)	二・六五	二・九〇
ファストスカレット Gベイス(ドイツ)	一・八〇	二・八〇	スカレットベイスN SP (日染)	一・七〇	二・二〇
インドブルーRX (ドイツ)	四・三五	四・三〇	クイバノールブルーNR (帝染)	四・三〇	四・〇〇

インダンスレンブルー  
RSN粉狀(ドイツ)

九・七七 一四・九三

ニホンスレンブルー  
RSN粉狀(日染)

未發賣 一一・〇〇

(ハ) 競争上不利又は有利とする點

本邦合成染料工業は技術の進歩著しきものあり、歐米に遜らざるに至りたるが、需給の關係上原料又は中間物の輸入に俟ちつゝあるもの相當額に達す。此の點不利なる立場にあるも、一面相當の關稅保護を受け、且つ最近は爲替變動に依り採算良化せる等、競争上有利となれり。

一九、カーボンブラック

一、概 説

カーボンブラックは石油系天然瓦斯、油脂、樹脂、コールタール等を不完全燃焼せしめて、製造する主要なる黑色顔料にして、本邦に於ては福井縣に小規模の製造者ありたるが、昭和六年九月日本石油株式會社は臺灣に於ける天然瓦斯を原料として製造を創め、漸次其の規模を擴張し、國內需要の大半を充すに足るに至れり。

カーボンブラック製造に最も適する原料は天然瓦斯なれども、本邦に於ける産出極めて少く、之れが代用原料も亦豊富ならず。

二、輸出入状況

(イ) 輸入額

年次	數量	價額
昭和四年	二、二〇四、七六〇疋	一、一一三、七七六圓
昭和五年	二、一八七、〇〇〇	七八六、一三七
昭和六年	二、七四四、三四〇	七三四、〇〇〇
昭和七年	二、四三七、〇八〇	一、〇〇一、六四五

國別輸入額 (昭和六年)

國名	數量	價額
中華民國	六〇疋	一圓
英吉利	一一、八二〇	三、〇〇〇
佛蘭西	一、九八〇	二、〇〇〇
獨逸	六、三六〇	三、〇〇〇
北米合衆國	二、七二四、一二〇	七二三、〇〇〇

昭和六年輸入品の大部分は北米合衆國品にして、ユナイテッドカーボン會社製のものなり。

(ロ) 輸出額 なし

三、生産状況

(イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和四年	一九、八三二疋	一四、〇九六圓
昭和五年	一五、〇一八	一〇、〇〇五
昭和六年	一六九、九九〇	四八、三〇八
昭和七年	七五三、一四七	二四六、八四一

(ロ) 生産能力

天然瓦斯に依る生産能力は現在日産五疋にして、瓦斯の噴出量増加に従つて尙増産の見込あり。

(ハ) 主要生産者名及所在地名

日本石油株式會社	東京市麴町區丸之内二ノ六
横田化學工業所	福井縣三方郡河原市

四、内外品競争状況

(イ) 競争外國品の製造者名

ユナイテッドカーボン會社(米國)「コスモス印」

(ロ) 品質及價格の比較